

科目概要

学科名	建築・インテリアデザイン科		
科目コード	2026SD11		
授業科目名	設計製図演習		
単位数	3		
必修・選択の別	必修		
対象コース	共通		
開講年次	1年次	開講時期	通年
授業方法	演習		
実務経験のある教員による授業科目	該当する		

シラバス

授業内容	建築設計に先立ち、製図用具の使い方から線の描き方等の基礎技術を修得する。建築設計製図の模写課題を通じ、実際に建築設計や現場で必要とされる建築設計製図の技術及び図面の読解力を修得する。
到達目標	建築製図法の基本、基本図の理解と徹底を行い、木造建築物、鉄筋コンクリート造の各図面の模写を通して設計図を正しく読む力及び正しく描く技術を養う。
授業計画	第1回 製図用具の使い方・線種とその使い方
	製図用具(製図板等)の使い方、製図の基本である製図規格・図面の種類について学ぶ・様々な線種の描き分け方を学ぶ
	第2～5回 木造住宅 配置図兼平面図
	配置図と平面図の模写を通し、敷地の形状及び道路や建築物の位置関係、平面計画の手法について学ぶ
	第6～7回 木造住宅 1階床伏図
	床伏図の模写を通し、建築物の床の骨組みについて学ぶ
	第8～9回 木造住宅 小屋伏図
	小屋伏図の模写を通し、建築物の屋根の骨組みについて学ぶ
	第10～14回 木造住宅 矩計図
	矩計図の模写を通し、建築物の各部の高さ、断面寸法、各部材の種類などの詳細について学ぶ
	第15～16回 木造住宅 断面図
	矩計図の模写を通し、建築物と地盤面との関係、高さ方向の基準寸法について学ぶ
	第17～18回 木造住宅 立面図
	立面図の模写を通し、立面計画の手法、表現方法について学ぶ
	第19～23回 木造住宅 平面詳細図
	平面詳細図の模写を通し、平面詳細図の表現方法について学ぶ
	第24～26回 RC造集合住宅 平面詳細図
	平面詳細図の模写を通し、RC造の平面詳細図の表現方法について学ぶ
	第27～28回 RC造集合住宅 断面詳細図
	断面詳細図の模写を通し、RC造の構造及び詳細図について学ぶ
	第29～30回 RC造集合住宅 展開図
	断面詳細図の模写を通し、室内の各壁面の床から天井までの形状を立面として表す手法を学ぶ
教科書	新しい建築の製図(学芸出版社)
成績評価方法	各製図課題における作品評価点(70%)及び授業参加への積極性を重視する平常点(30%)により評価する。
備考	

科目概要

学科名	建築・インテリアデザイン科		
科目コード	2026SD12		
授業科目名	建築計画 I		
単位数	2		
必修・選択の別	必修		
対象コース	共通		
開講年次	1年次	開講時期	通年
授業方法	講義		
実務経験のある教員による授業科目	該当する		

シラバス

授業の内容	建築設計業務に携わった経験を持つ教員が、設計を行う上で必要となる基本的な寸法や各部の要点について解説した後、生活の基盤となる住空間から各種建築物にわたる様々な建築物の特徴や計画要点について解説を行う。		
到達目標	建築計画の役割、建築設計に必要な基礎知識（寸法、用語、空間の構成等）が理解できること、また建築計画各論では各種建築物に関する基礎知識を修得し、計画手法を身につけることを目標とする。		
授業計画	第1回 建築計画について、単位と寸法 第2回 計画の進め方、各部の計画（扉、窓、階段等の考え方） 第3回 単位空間の計画 第4回 住居空間の計画 第5回 独立住宅の計画（平面計画と配置計画） 第6回 独立住宅の計画（諸室の計画） 第7回 独立住宅の計画（平面形式と事例分析） 第8回 集合住宅の計画（住棟形式と分類） 第9回 集合住宅の計画（計画上の要点） 第10回 集合住宅の計画（事例分析） 第11回 教育施設の計画（幼稚園・保育所） 第12回 教育施設の計画（小・中・高等学校等） 第13回 教育施設の計画（教育施設の事例分析） 第14回 図書館の計画 第15回 美術館の計画 第16回 劇場の計画 第17回 事務所の計画 第18回 ホテル等宿泊施設の計画 第19回 病院・診療所の計画 第20回 商業建築の計画 第21回 高齢者福祉施設等の計画 第22回 駐車・駐輪施設等の計画 第23回 スポーツ施設等の計画 第24回 その他各種建築物の計画 第25回 高齢者・障害者に配慮した計画（基本的な考え方と背景） 第26回 高齢者・障害者に配慮した計画（計画における留意事項） 第27回 環境に配慮した計画（サステナビリティとその背景） 第28回 環境に配慮した計画（コンバージョンとリノベーション） 第29回 建築計画の総括と今後の展望（複合建築物の事例分析） 第30回 建築計画の総括と今後の展望（防災計画）		
教科書	図説 やさしい建築計画（学芸出版社）		
成績評価方法	期末定期試験(60%)、レポート課題(20%)、授業参加への積極性を重視する平常点(20%)により評価する。		
備考			

学科名	建築・インテリアデザイン科		
科目コード	2026SD13		
授業科目名	空間意匠論		
単位数	2		
必修・選択の別	必修		
対象コース	共通		
開講年次	1年次	開講時期	通年
授業方法	講義		
実務経験のある教員による授業科目	該当する		

授業内容	大学や専門学校で建築設計を教えた経験を持ち、建築設計事務所で意匠設計に携わった教員が、その見識や経験を活かしての講義をする。デザインは唯一の解答を持つものではなく、個々の持つ価値観・背景等が主観を構成し、それが社会と対話することにより生み出される。本講義では、これまで創られてきた建築・インテリア空間などを作者の考えと共に紹介し、学生に空間を構成しうる多様な価値観・概念を習得させることを目的とする。
到達目標	毎回テーマを設けて、建築・インテリア空間を紹介し、基礎的な知識を身につける。様々な要因でどんな作品が創られて来たかを学習し、実際の作品を考察していく。また、国内外の最近作を通して、現代建築意匠がどうあるべきか考えながら、最終的に自分達でコンセプトを重視したスケッチ作品を制作できるようにする。
授業計画	第1～ 2回 都市の中における建築の位置付けと使命 第3～ 4回 人と建築はどのような関係付けられるか？ 第5～ 6回 建築は風土によりどのような影響を受けるか？ 第7～ 10回 建築は自然とどのように付き合うべきか？ 第11～14回 用途が建築意匠に与える影響 第15～17回 技術の進歩に伴う建築の変遷 第18～20回 材料の変化に伴う建築の変遷 第21～24回 建築の保存と再生 第25～27回 内部と外部の境界は何が決定するのか？ 第28～29回 伝統・文化と建築の関係 第30回 建築デザインとは何か？
教科書	特に指定なし。担当教員により必要に応じてプリントを配布する。
成績評価方法	テーマに沿った課題作品評価点(80%)及び授業参加への積極性を重視する平常点(20%)により評価する。
備考	

科目概要

学科名	建築・インテリアデザイン科		
科目コード	2026SD14		
授業科目名	建築デザイン史		
単位数	2		
必修・選択の別	必修		
対象コース	共通		
開講年次	1年次	開講時期	通年
授業方法	講義		
実務経験のある教員による授業科目	該当する		

シラバス

授業内容	欧米の大学に留学経験があり、建築設計事務所で建築意匠に携わっている教員が、その見識や経験を活かした建築デザイン史の講義をする。建築設計上、意匠の占める要素は非常に大きいといえる。日本・西洋建築史で各時代背景とともに、国ごとの政治・経済・宗教・気候風土・生活様式等の違いと、建築技術や材料の変化の過程を学ぶことで、建築の創造の原点にあるそれぞれの価値観を習得する。
到達目標	各時代・国ごとに実際の建築・インテリア写真を通して考察し、その特徴を深く理解しながら、現代に至る建築意匠の変遷を理解する。日本・西洋建築史を通して得た知識を建築設計するときの意匠に関する基礎的な知識として応用できるようにする。
授業計画	西洋建築史 第1～2回 古代オリエント・エジプト建築 第3～4回 ギリシャ・ローマ建築 第5～6回 ロマネスク・ゴシック建築 第7～8回 ルネッサンス・バロック建築 第9～10回 ロココ・リヴァイヴァル建築 近代建築史 第11～12回 19世紀末建築 第13～14回 近代建築運動とモダニズム建築 第15～16回 第二次世界大戦後の建築 第17～19回 ポストモダニズムから21世紀の建築へ 日本建築史 第20～21回 古代から中世へ；神社・仏教建築 第22～23回 中世から近世へ；寝殿造・書院造 第24～25回 近世の茶室・数寄屋建築 第26～27回 明治・大正・昭和初期の建築 第28～29回 第二次世界大戦後の日本建築の発展 総括 第30回 これからの建築デザイン
教科書	コンパクト版 建築史 日本・西洋 彰国社
成績評価方法	定期試験（80％）及び授業参加への積極性を重視する平常点（20％）により評価する。
備考	

科目概要

学科名	建築・インテリアデザイン科		
科目コード	2026SD15		
授業科目名	構造力学 I		
単位数	2		
必修・選択の別	必修		
対象コース	共通		
開講年次	1年次	開講時期	後期
授業方法	講義		
実務経験のある教員による授業科目	該当する		

シラバス

授業の内容	構造力学の力の基礎表現をベースとし、力の釣り合い・部材に生じる力・断面に関する諸数値などを学習する。特に、力の感覚を重視して、構造力学の基礎的事項の習熟度を高める。具体的には、教科書に沿って構造物の力学モデルを理解し、反力や応力の計算・トラス構造の解法・座屈荷重の算出方法等を解説。さらに、実践問題や発展内容にも触れながら理解を深める。
到達目標	建築物を設計する上で理解しておかなければならない構造力学の基礎的な知識を身につける。また、反力、応力や部材の変形等についての理解を深め、基礎的な解法を修得する。
授業計画	第1回：構造力学に必要な算術計算 平方根・連立方程式・相似形・面積算出の基礎計算を確認する。 第2回：力の基礎 構造力学の力の表現や符号を理解し、力の分解や合力・モーメントの求め方を学習。分布荷重の扱いも学ぶ。 第3回：力の釣り合い 力の釣り合い条件を学習。また、回転を伴う力の釣り合いも解説、練習問題に取り組む。 第4～5回：反力計算 構造物の力学モデルをもとに支え方を学ぶ。荷重の種類別に、単純梁・片持ち梁・張り出し梁・ラーメン等の反力計算を行う。 第6～8回：応力計算 部材に生じる力を解説。軸方向力・せん断力・曲げモーメントの応力の向きを理解しながら応力図を描く。 また、曲げモーメント図とせん断変形の関係性や、せん断力の値からモーメント図の傾きを導く解法を学習する。 第9～11回：応力計算の実践問題・応用 矢印図法を用いたせん断力図の描き方、図解法（スパナ法）や面積法を用いた曲げモーメント図の描き方を習得する。 様々な構造物の実践問題を取り組み、形に適した解き方を学ぶ。 第12～13回：断面に関する数量 部材断面に関する図心・断面一次モーメント・断面二次モーメント・断面係数を理解し、それぞれの求め方を学習する。 中立軸の決定における留意ポイントや薄肉断面の差し引きなど、断面形状に応じた適切な解法を理解する。 第14回：座屈 座屈が発生する現象を解説し、座屈荷重の計算方法や座屈が発生しにくい断面及び支点条件が判別できるようになる。 第15回：トラス トラス造の特徴を図で理解しながら、節点・荷重・支点に着目した軸方向力の解法を学ぶ。 構造物パターンに応じて図解法や切断法など適切な解き方が出来るように練習問題に取り組む。
教科書	図説やさしい構造力学（学芸出版社）
成績評価方法	授業前半終了時点での中間試験（2割）及び期末試験（7割）で評価し、授業参加への積極性を重視する平常点（1割）で評価する。
備考	

科目概要

学科名	建築・インテリアデザイン科		
科目コード	2026SD16		
授業科目名	一般構造		
単位数	2		
必修・選択の別	必修		
対象コース	共通		
開講年次	1年次	開講時期	前期
授業方法	講義		
実務経験のある教員による授業科目	該当する		

シラバス

授業の内容	現役建築士が、監理業務において担当した実例や現場での経験談を交えながら講義する。 3つの主要な構造（木造・鉄筋コンクリート造・鉄骨造）の概要や構成、材料の特徴・特性等について学ぶ。
到達目標	建築物を成立させている部位の構成や仕組みを理解し、建築を学ぶ上で知っておきたい基礎的な建築技術の概要や構成、架構の知識を習得する。また、建築技術、構造の全体像の把握に加え、建築に携わる人が必要とする建築技術専門用語を理解・習得する。
授業計画	第 1-2 回 [建築構法の概要] 建築構法の変遷、建築構造の分類、構法エレメントについて学ぶ
	第 3-4 回 [木質構法] 木質構法の特徴 各工法の特徴を学び、各種図面を理解する
	第 5-6 回 [木質構法] 木材 木材の組織と性質、製材規格、木質材料について学ぶ
	第 7-8 回 [木質構法] 軸組工法の部材構成・基礎〈地盤調査・地業・基礎〉について学ぶ
	第 9-10回 [木質構法] 軸組工法の軸組〈土台・柱・桁・梁・胴差〉・小屋組について学ぶ
	第11-12回 [木質構法] 軸組工法の壁〈筋交い・柱頭柱脚金物〉・内外装について学ぶ
	第13-14回 [木質構法] 軸組工法の開口部・建具・階段・接合〈継手・仕口〉について学ぶ
	第15-16回 [木質構法] 枠組壁工法/大断面集成材構造の構成・材料・建方・接合について学ぶ
	第17-18回 [鉄筋コンクリート構造] 鉄筋コンクリート構造の構成・特徴・原理について学ぶ
	第19-20回 [鉄筋コンクリート構造] 鉄筋コンクリート構造の材料〈コンクリート・鉄筋〉について学ぶ
	第21-22回 [鉄筋コンクリート構造] ラーメン構造の構成・建方・基礎・柱・梁・スラブ・壁について学ぶ
	第23-24回 [鉄筋コンクリート構造] ラーメン構造の内外装・階段・型枠について学ぶ
	第25-26回 [鉄筋コンクリート構造] その他の構法〈壁式構造・プレキャスト構造・鉄骨鉄筋コンクリート構造〉について学ぶ
	第27-28回 [鉄骨構造] 特徴と材料 構造形式と特徴、材料と接合方法について学ぶ
	第29-30回 [鉄骨構造] 架構・建方 架構の構成と建方の流れについて学ぶ
教科書	[図解] 建築の構造と構法 〈井上書院〉
成績評価方法	定期試験 (80%) 及び授業参加への積極性を重視する平常点 (20%) により評価する
備考	

科目概要

学科名	建築・インテリアデザイン科		
科目コード	2026SD17		
授業科目名	建築材料学		
単位数	2		
必修・選択の別	必修		
対象コース	共通		
開講年次	1年次	開講時期	前期
授業方法	講義		
実務経験のある教員による授業科目	該当する		

シラバス

授業の内容	建築設計事務所に勤務し、建築設計、コーディネートの実務経験をもつ教員が建築材料の歴史や概要を解説、また材料の特徴、特性について講義し、その使われ方、用途等を建築現場経験を基に解説する。
到達目標	建築の設計、空間コーディネートにおいて理解しておかなければならない建築材料と空間部位別仕上げ材などの種類、特徴、性能等について基礎的な知識を身につける。
授業計画	第1回 建築材料の歴史と環境 時代時代につくられ建築に使用されてきた材料の大まかな流れと現代の環境問題について学ぶ。
	第2～3回 日本建築と木材 日本伝統工法と木材の種類、特徴、構造の基礎知識を学ぶ。
	第4～5回 エンジニアリングウッド 資源の再利用から作り出された加工木材の種類、特徴を学ぶ。
	第6～7回 コンクリート材料 建築の構造材料としてのコンクリートの原材料それぞれの特徴、性質を学ぶ。
	第8～10回 コンクリートの性質と製品 コンクリートの性質、耐久性、強度についてと、コンクリート製品の種類と特徴について学ぶ。
	第11～13回 鉄鋼 鉄の歴史 鉄の建築への使用の歴史、鋼材の特徴、性質、規格について学ぶ。
	第14～16回 非鉄金属 中間小テスト 建築に使われている鉄鋼以外の金属の種類、特徴、性質について学ぶ。
	第17～19回 焼成品 タイル、レンガ、瓦、衛生陶器の種類、特徴、性質について学ぶ。
	第20～21回 ガラスと石 ガラスの歴史、製法、特徴、性質と石の分類、特徴について学ぶ。
	第22～23回 左官材料とボード類 左官の起源と定義、左官材料と仕上げの種類と、木材の板以外のボード類な種類や特徴を学ぶ。
	第24～25回 その他の材料 新建材 プラスチック材料の種類、特徴と塗料、接着剤の種類について学ぶ。
	第26～28回 部位別材料 内部仕上げの床・壁・天井の部位ごとの仕上げ材料特徴と施工について学ぶ。
	第29～30回 性能別材料 要求される性能で防水、防火、耐火、断熱、防音、吸音材料について学ぶ。
教科書	図説 やさしい建築材料(学芸出版社)
成績評価方法	定期試験及び授業内小テスト(80%)授業参加への積極性を重視する平常点(20%)により評価する
備考	

科目概要

学科名	建築・インテリアデザイン科		
科目コード	2026SD18		
授業科目名	色彩学		
単位数	1		
必修・選択の別	必修		
対象コース	共通		
開講年次	1年次	開講時期	前期
授業方法	講義		
実務経験のある教員による授業科目	該当する		

シラバス

授業内容	色彩についての基礎概念を理解し、色がどのような影響を与えるのか、その心理的な役割や効果、調和のとれた配色技法を修得する。また建築やインテリアだけに留まらず、ファッションやプロダクト、ビジュアルデザインやディスプレイデザインなど様々な分野での基本的な配色技法を修得する。
到達目標	・色彩学の意義や色彩理論を理解し、配色技法及び色彩感覚を身に付ける。 ・色を伝える方法や心理効果、配色技法を学ぶことで建築環境の安全・美化・デザイン性への効果、建築空間イメージへの想定などを身に付ける。 ・文部科学省後援 色彩検定2級 取得
授業計画	第1回 色のユニバーサルデザイン 色のはたらき、色覚特性の多様性、色覚説について 第2回 光と色 光の性質と色、視覚系の構造と色、照明について 第3回 色の表示 マンセル表色系について 第4回 色彩心理・色彩調和 色の視覚効果と心理効果、色彩調和について 第5回 色彩調和(配色技法・配色イメージ) 自然秩序からの色彩調和、配色技法、イメージ別配色法について 第6回 ビジュアル ヴィジュアルデザイン、メディアデザインについて 第7回 ファッション ファッションの色彩と配色について 第8回 インテリア 住空間のインテリアの概念、住空間におけるインテリアの配色構成、インテリアスタイルについて 第9回 景観色彩 景観色彩における色彩設計の役割、基礎知識について 第10回 インテリア・景観色彩による演習 戸建て住宅の色彩設計を演習課題にておこなう
教科書	文部科学省後援 色彩検定 公式テキスト2級編
成績評価方法	授業内で行われる小テストと定期試験(80%)及び授業参加への積極性を重視する平常点(20%)により評価する。
備考	

科目概要

学科名	建築・インテリアデザイン科		
科目コード	2026SD19		
授業科目名	C A D 演習A		
単位数	3		
必修・選択の別	必修		
対象コース	共通		
開講年次	1年次	開講時期	通年
授業方法	演習		
実務経験のある教員による授業科目	該当する		

シラバス

授業内容	建築設計業務においてCAD製図に携わった経験を持つ教員が、コンピュータの基本操作から、２次元汎用ＣＡＤ（jwcad）を利用した実務的な建築製図に必要な知識や技術を指導する。		
到達目標	コンピュータ操作に必要な知識を習得し、同時にトラブル等に対する対応力も高める。 ＣＡＤ製図に必要なコマンド操作を理解・修得し、作図中に最も適切なコマンド選択ができる能力を養う。縮尺に応じた表現、出力線種の選択・変更等を適切に行い、成果物提出までの一連の作業を理解・修得する。		
授業計画	第1回	コンピュータの概要、基本操作	
	第2回	ＣＡＤの概要、基本操作（ＵＩ、環境設定）	
	第3～7回	基本操作（基本コマンド）	
	第8回	基本操作（レイヤの概念、操作）	
	第9～11回	基本操作（ショートカット、クロックメニュー操作）	
	第12～15回	小課題による作図（建築CAD検定2級問題程度）	
	第16～17回	ＲＣ造(3階建)配置・平面図（1/100）	
	第18～19回	ＲＣ造(3階建)断面図（1/100）	
	第20回	ＲＣ造(3階建)立面図（1/100）	
	第21～22回	ＲＣ造(3階建)図面の変更・修正方法（1/100）	
	第25～28回	ＲＣ造(3階建)平面詳細図（1/50）	
	第29～31回	ＲＣ造(3階建)断面詳細図（1/50）	
	第32～33回	木造(2階建)配置・平面図（1/100）	
	第34回	木造(2階建)断面図（1/100）	
	第35回	木造(2階建)立面図（1/100）	
	第36～37回	木造矩計図（1/50）	
	第38～39回	木造平面詳細図（1/50）	
	第40回	配置図(1/100)、付近見取図（1/300）	
教科書	JW_CAD建築製図（学芸出版社）		
成績評価方法	提出課題による評価(70%)、授業参加への積極性を重視する平常点(30%)により評価する。		
備考			

科目概要

学科名	建築・インテリアデザイン科		
科目コード	2026SD20		
授業科目名	パースペクティブ演習		
単位数	1		
必修・選択の別	必修		
対象コース	共通		
開講年次	1年次	開講時期	後期
授業方法	演習		
実務経験のある教員による授業科目	該当する		

シラバス

授業内容	本講義は建築設計の分野では立体図形の把握と表現は非常に重要な基礎能力である。この演習では、各種投影図法についての講義と演習課題により透視図の制作方法を修得する。
到達目標	フリーハンド・スケッチなどに有効な簡略図法なども含め、実際の設計業務における検討やプレゼンテーションに役立つ技術を修得する。また与えられた平面図・立面図から立体図形として空間を立ち上げるなど、空間認識力を養う。
授業計画	第1回 透視図の原理と用語・1消点基本図法
	第2回 1消点図法(室内)
	第3回 2消点基本図法
	第4回 2消点図法(建築外観)
	第5回 3消点基本図法
	第6回 3消点図法(建築鳥瞰)
	第7回 オフィス空間のパース作成及び着彩
	第8回 住空間のパース作成及び着彩
	第9回 商業空間のパース作成及び着彩
	第10回 スケッチパースへの応用
	担当教員において配布資料制作
教科書	各課題における作品評価点(80%)及び授業参加への積極性を重視する平常点(20%)により評価する。
成績評価方法	
備考	

科目概要

学科名	建築・インテリアデザイン科		
科目コード	2026SD21		
授業科目名	建築造形演習		
単位数	2		
必修・選択の別	必修		
対象コース	共通		
開講年次	1年次	開講時期	通年
授業方法	演習		
実務経験のある教員による授業科目	該当する		

シラバス

授業内容	造形に関わる基本的な考え方や工程、表現技法についての演習を行う。着眼、発想を元にしたコンセプトワークにはじまり、エスキス、図面化から造形に至るプロセスを通じて、思考と美的造形の表現力を深める。
到達目標	建築意匠・建築設計の基礎として様々な表現技法を修得するとともに、美的表現の追求、多様性への理解を深める
授業計画	第1回～第5回 基礎造形 様々な材料に触れ、ポリウムスタディを通して基礎的な立体を制作する。
	第6回～第8回 [演習：フォーリー] コンセプト作成 フォーリーの考え方を理解し、空間や形態の方向性を示すコンセプトを検討する。
	第9回～第11回 [演習：フォーリー] ポリウムスタディ・模型作成 コンセプトに基づき、形や構成を検討しながらポリウム模型を制作する。
	第12回～第14回 [演習：フォーリー] プレゼンボード作成 制作した模型の意図や特徴を整理し、図面・写真・文章を用いてプレゼンボードにまとめる。
	第15回 [演習：フォーリー] プレゼンテーション 模型とプレゼンボードを用いて作品のコンセプトや空間構成を発表する。
	第16～20回 [演習：基本住宅模型の作成①（平屋）] 住宅模型制作に必要な図面の読み取り方などを学び、基本的な模型制作技術を身につける。
	第21～24回 [演習：基本住宅模型の作成②（2階建て）] 壁・床・屋根・開口部・階段などを正確に組み立て、住宅模型としての完成度を高める。
	第25～30回 [演習：自由課題] これまでに習得した技術を活用し、各自のテーマに基づき、模型図面の作成から制作まで行う。
教科書	指定しない。必要に応じて資料を配布する。
成績評価方法	各演習課題における作品評価点（80%）及び授業参加への積極性を重視する平常点・出席点（20%）。
備考	

科目概要

学科名	建築・インテリアデザイン科		
科目コード	2026SD22		
授業科目名	リフォーム概論		
単位数	2		
必修・選択の別	必修		
対象コース	共通		
開講年次	1年次	開講時期	後期
授業方法	講義		
実務経験のある教員による授業科目	該当する		

シラバス

授業内容	建築設計事務所に勤務し、建築設計、コーディネートの実務経験をもつ教員が、その見識や経験を活かして講義をする。住宅のリフォームについての基礎知識や、事例による具体的実践方法を解説し、法規や設備、住宅性能などの様々な観点から考察しながら、より良い住生活を実現するための方法を修得する。
到達目標	住宅リフォームを行うにあたり必要な基礎知識の修得を目的とする。単に老朽化への対処だけではなく、現代のリフォームの動向や住宅性能の要点などを理解し、変化する住まいへの価値観についてみずから考察するための実力を養う。
授業計画	第1回 住宅・住生活の変遷について 第2回 住宅リフォームの計画について 第3回 住宅リフォームの関連法規 第4回 住宅性能に関する知識① 第5回 住宅性能に関する知識② 第6回 住宅性能に関する知識③ 第7回 リフォーム実践の手順について 第8回 事例と解説① 第9回 事例と解説② 第10回 事例と解説③、まとめ
教科書	住宅リフォーム計画(学芸出版社)
成績評価方法	定期試験(80%)及び授業参加への積極性を重視する平常点(20%)により評価する。
備考	

科目概要

学科名	建築・インテリアデザイン科		
科目コード	2026SD23		
授業科目名	住宅計画論		
単位数	2		
必修・選択の別	必修		
対象コース	共通		
開講年次	1年次	開講時期	前期
授業方法	講義		
実務経験のある教員による授業科目	該当する		

シラバス

授業内容	住宅設計業務に携わった経験を持つ教員が、建築計画Ⅰで履修した基本的な居住空間の計画を踏まえ、生活をより豊かにするために多様化する計画の手法や寸法・構造について詳説する。住まいの歴史やバリアフリーへの対応の仕方、建築基準法の規定や建築にかかわる費用などについても体系的に解説・指導する。
到達目標	住宅設計者に求められる空間構成への理解やそれに伴う寸法・構造等の知識を身につける。さらに建築基準法や積算の基礎を理解し、最終的に建築主からヒアリングした内容をもとに住宅設計行為の全体をマネジメントできる力を修得することを目指す。
授業計画	第1回 住まいの成り立ち、現代の住宅、空間を構成するもの 寸法単位や住まいとコミュニティの変化について知る。
	第2回 快適な住環境をつくる工夫 快適な住環境を実現するための採光・通風・断熱・換気等の基本的手法を学ぶ。
	第3～4回 単位空間と計画のポイント① 住まいを構成する各単位空間の役割と、計画時に必要となる基本寸法や動線を理解する。
	第5～6回 単位空間と計画のポイント② 生活行為に応じた空間構成を理解し、居室・水まわり・収納等の計画ポイントを学ぶ。
	第7回 バリアフリーと部屋の寸法 人体寸法や動作寸法をもとに、バリアフリーに配慮した室内寸法の考え方を学ぶ。
	第8回 木造の仕組み 木造住宅の構造形式、部材名称、基本的な成り立ちについて理解する。
	第9～10回 プランニング時の確認事項① 住宅プランニングに必要な敷地条件、方位、周辺環境、法的条件等を確認する。
	第11～12回 プランニング時の確認事項② 住まい手の要望や生活スタイルを整理し、ゾーニング・動線・収納計画の考え方を学ぶ。
	第13～14回 プランニング演習 条件をもとに住宅プランを検討し、空間構成や動線計画を図面上で表現する。
	第15回 まとめ これまでの学習内容を整理し、住宅計画における基本的な視点を総合的に確認する。
教科書	学芸出版社「住まいの建築計画」
成績評価方法	定期試験（80％）及び授業参加への積極性を重視する平常点（20％）により評価する。
備考	

科目概要

学科名	建築・インテリアデザイン科		
科目コード	2026SD24		
授業科目名	社会研究 I		
単位数	1		
必修・選択の別	必修		
対象コース	共通		
開講年次	1年次	開講時期	前期
授業方法	講義		
実務経験のある教員による授業科目	-		

シラバス

授業内容	働くことの意義、業界研究、自己分析を経て自己の社会的確立を目的とし、進路決定の基本となる考え方と就職活動の具体的方法を学ぶ。
到達目標	就職活動に行なう上で必要とされる知識やマナー(礼儀作法)、コミュニケーションを習得し、前向きに取り組む力を身に付ける。
授業計画	第1回 オリエンテーション(就職対策について)
	第2回 職業理解(仕事の職種や業界・企業研究の方法)
	第3回 働くときの基礎知識①(労働条件・賃金)
	第4回 働くときの基礎知識②(社会保険制度)
	第5回 働くときの基礎知識③(解雇と退職、関係法令)
	第6回 コミュニケーション技法①(傾聴力)
	第7回 コミュニケーション技法②(伝え方・実践)
	第8回 自己分析①(自分のこれまでとこれからを考えてみる(長所と短所 リフレーミングのワーク))
	第9回 自己分析②(役割と適性について)
	第10回 自己分析③(自己PRを作成する)
	第11回 履歴書①(履歴書の書き方(左半分))
	第12回 履歴書②(履歴書の書き方(右半分))
	第13回 文書作成(お礼状の書き方)・応募書類の郵送について
	第14回 面接対策①(面接の種類・よくある質問事項について)
	第15回 面接対策②(動画視聴)
教科書	担当教員において配布資料作成
成績評価方法	定期試験(80%)及び授業参加への積極性を重視する平常点(20%)により評価する。
備考	

科目概要

学科名	建築・インテリアデザイン科		
科目コード	2026SD25		
授業科目名	グラフィック演習		
単位数	2		
必修・選択の別	必修		
対象コース	共通		
開講年次	1年次	開講時期	前期
授業方法	演習		
実務経験のある教員による授業科目	該当する		

シラバス

授業内容	DTP(デスクトップパブリッシング)ソフトであるAdobe Illustrator・Photoshopにて実践的な基本操作を学び、作品集のまとめや最終課題である卒業制作でのプレゼン用ボードのレイアウトテクニックを修得します。
到達目標	実務において、クライアントへのプレゼンテーションに適した技術や手法などの基礎的な知識を身に付け、的確な企画・立案の技術を捉えるための力を養う。
授業計画	第1回～第3回 アプリケーションソフトウェアの基本操作(Illustrator)
	第4回～第6回 アプリケーションソフトウェアの操作(Photoshop)
	第7回～第8回 ロゴデザイン(アイデアスケッチ・CG制作)
	第9回～第10回 DTPの基礎知識とオペレーション技術1(写真配置やテキストレイアウトの技術)
	第11回～第13回 フライヤーデザイン(写真配置やテキストレイアウトの応用)
	第14回～第15回 DTPの基礎知識とオペレーション技術2(建築図面のトレース・彩色の基礎技術)
	第16回～第20回 プレゼンテーションボード作成(建築図面のトレース・彩色の応用)
教科書	担当教員において配布資料制作
成績評価方法	各課題における作品評価点(80%)、及び授業参加への積極性を重視する平常点(20%)により評価する。
備考	

科目概要

学科名	建築・インテリアデザイン科		
科目コード	2026SD26		
授業科目名	施工 I		
単位数	2		
必修・選択の別	必修		
対象コース	共通		
開講年次	1年次	開講時期	通年
授業方法	講義		
実務経験のある教員による授業科目	該当する		

シラバス

授業内容	現場監督として勤務経験を有する教員が、建築工事着工前から完成に至るまでの工程全般に関して、基礎的知識や概要を解説する。具体的には、施工計画の工程及び計画図の理解や、施工管理で考慮すべき材料管理や安全管理の重要事項を講義。さらに、各工事ごとに施工要点や規定の詳細を図式やイラスト・写真を用いて理解を深める。また、契約や仕様書の概要も解説し、建築工事全体の流れを講義する。
到達目標	工事工程に従って、技術的な工法の基礎的知識や専門用語を修得する。また、施工監理者として各工種ごとに考慮すべき要点や、工程に応じた工事手順の注意事項を理解することができる。
授業計画	第1～2回：施工計画・施工管理 施工者が始めに準備する各計画書・工程表・申請書・予算書等の内容詳細を説明、考慮事項を学習 第3～4回：工事準備・基礎工事 各種官庁への手続き及び工事前の各調査の内容を学習。基礎下地作りとなる地業工事の施工内容を学習 第5～6回：鉄筋工事Ⅰ 鉄筋の種類を理解し加工・組立の基本事項を確認する。ピッチ・かぶり厚さ等の適切な寸法などを学習 第7～8回：コンクリート工事Ⅰ・コンクリート工事Ⅱ コンクリートの各種混和材料の特徴や質重量比の決まり、強度係数やスランプ値及び空気量の基礎を学習 第9～10回：鉄骨工事 鉄骨材の品質規格や断面形状・寸法種類を確認、工場作成及び現場接合で考慮すべき手順を学習 第11～12回：組積 補強コンクリートブロック工事の施工要領を学習、また、ブロック塀工事の注意事項や煉瓦工事の基礎を理解 第13～14回：木工事 木材各部名称と特徴を理解、変形・反りに応じた使い勝手を学習。木造継手・仕口の種類を理解する 第15～16回：左官工事 各下地の施工要領を学習、調合比率や塗り回数に応じた放置日数及びむら直しの時期等を講義 第17～18回：タイル工事・石工事 タイル材の種類とその性質を理解し、貼付け方の種類に応じた施工要領や下地塗りの区別を学習 第19～20回：塗装工事 塗料の種類とその特性を知り、種別に適応する素地種類を理解する。塗装面積に応じた各工法詳細を学習 第21～22回：建具工事・ガラス工事 開口部の種類・材料・保管法を解説、ガラスの規格・性能に合わせ適切な箇所に使用する重要性を学習 第23～24回：内装工事 床・壁・天井別で仕上工事の種類詳細を学習、下地納まりや接着剤の適切な使用方法などを理解する 第25～26回：断熱工事 断熱材料の種類・工法を理解し、各々施工上の注意事項と通気層・防湿層の重要性とその工法を学習 第27～28回：屋根工事 屋根形状の種類、材料に応じた勾配を理解し、屋根材に適応する下地処理及び仕上葺きの工法詳細を学習 第29～30回：契約・仕様 契約書の種類や記載事項の内容を理解、請負方式の違いや入札・発注形態を学習
教科書	専門士課程 建築施工（学芸出版社）
成績評価方法	授業前半終了時点での中間試験(3割)及び期末試験(6割)で評価し、授業参加への積極性を重視する平常点(1割)で評価する。
備考	

科目概要

学科名	建築・インテリアデザイン科		
科目コード	2026SD27		
授業科目名	デッサン		
単位数	2		
必修・選択の別	必修		
対象コース	共通		
開講年次	1年次	開講時期	通年
授業方法	演習		
実務経験のある教員による授業科目	該当する		

シラバス

授業内容	実技デッサンを通して 正しく物体を認識し正しく描き写すことは非常に重要な基礎能力である。更にアドバンスして構成・造形・応用デッサンを習得することにより、単なるデッサンから「表現力」へと導くことである。
到達目標	この演習の最終的な目的は、身近にある様々な道具を使用して、フリーハンドのドローイングにより、「無形のイメージ(アイデア)」を「有形の形」へと導く過程を習得する。
授業計画	第1回 必要な道具の説明と建築におけるデッサンの必要性について/グレースケール 第2回 グレースケール 第3回～5回 立方体デッサン(木) 第6回～7回 円柱デッサン(トイレットペーパー) 第8回～9回 球体デッサン(りんご) 第10回～12回 組モチーフデッサン(ピーマン／カップ／布) 第13回～15回 組モチーフデッサン(レモン) 第16回 空間デッサン導入／教室デッサン 第17回～18回 家具デッサン 第19回～20回 建築デッサン(世界の名建築①) 第21回～22回 建築デッサン(世界の名建築②) 第23回～24回 建築物デッサン(写真模写①) 第25回～26回 建築物デッサン(写真模写②) 第27回～30回 自由課題(自分で考えた空間を描く)
教科書	担当教員において配布資料制作
成績評価方法	各デッサン課題における作品評価点(80%)及び授業参加への積極性を重視する平常点(20%)により評価する。
備考	

科目概要

学科名	建築・インテリアデザイン科		
科目コード	2026SD28		
授業科目名	コーディネート演習Ⅰ		
単位数	1		
必修・選択の別	必修		
対象コース	共通		
開講年次	1年次	開講時期	後期
授業方法	演習		
実務経験のある教員による授業科目	該当する		

シラバス

授業内容	建築設計事務所に勤務し、建築設計、コーディネートの実務経験をもつ教員が、インテリアコーディネートの基礎を解説しながらコーディネートボード作成の実習を指導する。具体的には、インテリア構成要素の分析方法を学習し、実習として空間イメージボード・抽象イメージボード・外観イメージボードの作成を行う。最後に、自室空間のリフォーム提案の課題を通し、空間寸法の読み取り方や平面図作成の基本修得、イメージを他者に伝える為のボード作成方法を学習する。
到達目標	インテリア空間を構成する4要素【カラー・フォルム・マテリアル・テクスチャー】の分析ができる。また、居室空間の基本寸法を理解し平面図作成の基礎を身につける。相手に提案内容の魅力が伝わるような作品ボードの構成ができ、コンセプトが明確に伝わるようなプレゼンテーションができる。
授業計画	第1回 インテリアコーディネートの基本 インテリアコーディネーターの具体的な業務内容の解説、空間構成の重要な4要素の分析方法を学習する 第2回 抽象イメージボード作成 抽象テーマに沿ったイメージ画像の収集、選別、用紙のレイアウトバランス、貼付作業の基礎を学ぶ 第3回 インテリアイメージボード作成 テーマを内装空間に絞り、インテリア空間をより明確に表現するイメージボードの作成方法を学習する 第4回 外観イメージボード作成 建築物の外観に焦点を当て、特徴を捉え統一感のある外観イメージボードの作成方法を学習する 第5回 自室空間リフォーム 自室のリフォームプランを取り組むに当たり、採寸方法説明、躯体や開口部の基礎理解、案出しを行う 第6回 平面図作成 採寸してきた自室寸法を基にして、手描きの平面図作成作業を行う 第7回 リフォーム案検討 どのようにリフォームするのか具体的な家具寸法などを参考にしてレイアウトし、いくつかの案を検討する 第8回 リフォーム案作図作業 決定したリフォーム案を実際に平面図への落とし込み作業を行う 第9回 平面図着彩・ボードレイアウト 完成した平面図をわかりやすくする為に家具やエレメント、躯体や開口部の着彩作業を行ったのち、ボードにレイアウトする 第10回 作品プレゼン及び解説 今までの作品を、コンセプトや工夫点などを説明しながら1人ずつプレゼンテーション及び講評を行う
教科書	特に指定しない
成績評価方法	各演習作品評価点（80％）及び授業参加への積極性を重視する平常点（20％）により評価する。
備考	

科目概要

学科名	建築・インテリアデザイン科		
科目コード	2026SD29		
授業科目名	総合デザイン論		
単位数	1		
必修・選択の別	必修		
対象コース	共通		
開講年次	1年次	開講時期	前期
授業方法	講義		
実務経験のある教員による授業科目	－		

シラバス

授業内容	多岐に渡るデザイン分野の各専門知識や技術を、各専門分野の講師陣からオムニバス形式により具体的実例を専門家の考え方や手法を理解する。
到達目標	建築、インテリア、芸術、グラフィック、ファッション、インターネット、ディレクションなど各デザイン分野の専門知識を広く理解し、視野の広い発想力を養う。
授業計画	第1回 広告写真について
	第2回 ファッションスタイリングについて
	第3回 サインについて
	第4回 インターネットリテラシーについて
	第5回 フォトショップについて
	第6回 建築とデザインについて
	第7回 映像について
	第8回 雑貨デザインとブランディングについて
	第9回 彫刻について
	第10回 アールブリュッドとデザインについて
	第11回 雑貨デザインとブランディングについて
	第12回 ファッションブランドについて
	第13回 デザインとアートについて
	第14回 伝統工芸とデザインについて
	第15回 インテリアデザインについて
教科書	担当教員において配布資料作成
成績評価方法	受講レポート(70%)、及び授業参加への積極性を重視する平常点(30%)により評価する。
備考	

科目概要

学科名	建築・インテリアデザイン科		
科目コード	2026SD30		
授業科目名	ビジネスマナー		
単位数	1		
必修・選択の別	必修		
対象コース	共通		
開講年次	1年次	開講時期	後期
授業方法	講義		
実務経験のある教員による授業科目	該当する		

シラバス

授業内容	接客サービスに従事し、接客指導の実績のある教員が、社会人としての基礎力を指導する。第一印象から身だしなみ、正しい言葉遣いから、「話す」「聞く」等の表現を実践的に身に付け、公的な場面での好感のもてるマナーやコミュニケーション力を修得する。
到達目標	基本的なビジネスマナーを学び、日々のコミュニケーションを向上し、社会人として円滑な人間関係を築くための基礎力を身に付ける。
授業計画	第1回 ビジネスマナーとは / 社会人としての心構え
	第2回 基本動作 社会人としての挨拶と所作を学ぶ
	第3回 言葉遣いの基本①
	第4回 言葉遣いの基本②
	第5回 電話対応①/ビジネスマナーの基礎①
	第6回 電話対応②/ビジネスマナーの基礎②
	第7回 面接対策①
	第8回 面接対策②
	第9回 会社訪問時のマナー/社会で役立つ慶弔のマナー
	第10回 社交のマナー/振り返りと就職活動に向けて
教科書	担当教員による配布資料作成
成績評価方法	テーマに沿った演習評価(70%)及び、授業参加への積極性を重視する平常点(30%)により評価する。
備考	

科目概要

学科名	建築・インテリアデザイン科		
科目コード	2026SD31		
授業科目名	福祉住環境計画		
単位数	2		
必修・選択の別	必修		
対象コース	共通		
開講年次	1年次	開講時期	通年
授業方法	講義		
実務経験のある教員による授業科目	該当する		

シラバス

授業内容	超高齢社会の日本では、福祉住環境整備の需要はますます高まっている。高齢者や障害者に対して住みやすい住環境を提案するために、建築の知識に加え、介護、福祉、医療について、総合的に解説する。その人らしい暮らしの回復・実現・維持をサポートするための住環境について、様々な視点から解説し、福祉用具等の活用についても詳説する。
到達目標	福祉住環境コーディネーター2級の取得を目標とする。高齢による疾患や障害について正しく理解し、人それぞれの住環境の現状の問題点を整理し、改善策を提案する力を修得する。また、社会の変化による支援制度や施策の変遷を理解し、将来に向けた福祉住環境のあり方について考察を深める。
授業計画	第1回 高齢者を取り巻く社会状況と住環境 第2回 障害者を取り巻く社会状況と住環境 第3回 障害のとらえ方、リハビリテーションと自立支援、高齢者・障害者の心身の特性 第4回 高齢者に多い疾患について 第5回 高齢者に多い疾患別にみた福祉住環境整備 第6回 障害別に見た福祉住環境整備 第8回 相談援助の考え方と福祉住環境整備の進め方 第9回 生活行為別福祉住環境整備の手法 第10回 在宅生活における福祉用具の活用
教科書	福祉住環境コーディネーター検定試験 公式テキスト 2級 [改訂5版]
成績評価方法	定期試験(80%)及び授業参加への積極性を重視する平常点(20%)により評価する。
備考	

科目概要

学科名	建築・インテリアデザイン科		
科目コード	2026SD32		
授業科目名	建築設計A		
単位数	2		
必修・選択の別	必修		
対象コース	建築デザイン/建築エンジニアリング		
開講年次	1年次	開講時期	後期
授業方法	演習		
実務経験のある教員による授業科目	該当する		

シラバス

授業内容	建築設計業務の経験を持つ教員の指導により、独立住宅を設計課題とした演習を通して、「住」とは何か、何をもって「住宅」と呼ぶことが出来るのかを考察し、コンセプト立案から空間構成の検討、基本設計へと各々のフェーズを確認しながら建築設計全体の流れを学ぶ。
到達目標	既成概念に対して様々な問題提起を行い、エスキスを重ねることで建築家としての空間構想力を養う。 設計行為を計画的に進め、プレゼンテーションに至るまでの工程を自己管理できる能力を習得する。 建築の空間（平・立・断面）に対する簡単な提案ができる 設計意図を分かり易く説明するために必要な図面を描くことができる
授業計画	第1～2回 課題説明・資料収集・敷地環境等条件の整理
	第3～5回 エスキス1（コンセプト立案・ゾーニング）
	第6～9回 エスキス2（ボリュームスタディ・基本計画の策定）
	第10～13回 エスキス3（平面・立面・断面図(1/100)の検討）
	第14～16回 平面・立面・断面図(1/100)の作成
	第17～19回 模型の作成
	第20回 プレゼンテーション・講評
教科書	特に指定しないが、資料を配布する。
成績評価方法	提出課題(70%)、プレゼンテーション(10%)授業参加への積極性を重視する平常点(20%)により評価する。
備考	

科目概要

学科名	建築・インテリアデザイン科		
科目コード	2026SD33		
授業科目名	住宅設計A		
単位数	2		
必修・選択の別	必修		
対象コース	インテリアコーディネート		
開講年次	1年次	開講時期	後期
授業方法	演習		
実務経験のある教員による授業科目	該当する		

シラバス

授業内容	住宅メーカーで設計業務の経験を有する教員が、住宅を設計課題とし演習を行う。具体的には延床25㎡の狭小平屋住宅の設計を課題とし、「住宅」という既成概念に対して様々な問題提起を行いながらエスキスを重ね空間構想力を養い、必要な各設計図書の製作を行う。			
到達目標	基本的な空間モジュールや人間の行動特性を理解した上で動線計画ができ、現場で要求される設計図書【平面図・立面図・断面図・配線図・透視図・仕様書】を基礎をおさえ作成することができる。また、課題製作を計画的に進め、プレゼンテーションに至るまでの工程を自己管理できる能力を習得する。			
授業計画	第1～2回	解説・条件設定・プランニング		
	第3～4回	プランニングエスキス		
	第5～8回	一般平面図（1/50）検討及び作成		
	第9～11回	立・断面図（1/50）検討及び作成		
	第12～14回	配線図・仕様書・透視図検討及び作成		
	第15回	製図仕上・プレゼンテーション・講評		
	教科書	特に指定しない		
	成績評価方法	演習作品評価点（80％）及び授業参加への積極性を重視する平常点（20％）により評価する。		
備考				

科目概要

学科名	建築・インテリアデザイン科		
科目コード	2026SD34		
授業科目名	商業施設設計A		
単位数	2		
必修・選択の別	必修		
対象コース	商業空間デザイン		
開講年次	1年次	開講時期	後期
授業方法	演習		
実務経験のある教員による授業科目	該当する		

シラバス

授業内容	商業デザイン設計事務所での実務経験のある教員の指導により、商業施設を設計課題とした演習を通して、商業施設におけるコンセプト立案から、デザイン及び設計演習を行う。 住施設と比較し商業施設に求められる性質・機能を理解し、商業施設建築の発想・意匠計画の立案の基礎を学習する。
到達目標	リサーチからプレゼンテーションに至る一連のフローを体験し、商業デザインの初歩的な思考プロセスと基礎技術を習得する。店舗オペレーションを理解し、適切な諸寸法に基づいた平面計画を構築した上で、アイデアをデザインコンセプトとして定義し、空間構成へと反映させる能力を養う。
	・第1～2回：商業デザインの基礎と実務フローの理解 商業空間の役割や商業設計業務の全体像を把握し、基礎的なリサーチ手法を通じて市場を捉える視点を養う。 ・第3～4回：課題説明・与条件の整理とリサーチの実践 提示された設計条件を深く読み解き、ターゲット分析や競合調査を通じて課題解決のための情報を収集・整理する。 ・第5～7回：コンセプト立案とデザインイメージの策定 調査結果から独自の設計指針（コンセプト）を導き出し、イメージボード等の手法を用いて空間の視覚的な方向性を明確にする。 ・第8～11回：ゾーニングから空間・平面構成の構築 客席の快適性と店舗の作業効率（オペレーション）を考慮したゾーニングを行い、エスキスを通じて、コンセプトを具体的な平面および空間計画へと具現化する。 ・第12回～第15回：基本図面の作成（平面図・展開図） 縮尺1/50の精度で、基本寸法を理解し標準的な作図ルールと表現技法を習得する。 ・第16回～第19回：プレゼンテーション資料の作成 空間パースやマテリアル構成を含めたプレゼンテーションボード等を制作し、設計意図を視覚的に伝えるためのプレゼンツールを作成する。 ・第20回：プレゼンテーション・講評 自身の設計提案を論理的に説明し、教員や他者からの講評を通じて商空間設計における専門的視点と今後の課題を確認する。
教科書	特に指定しない
成績評価方法	提出課題・プレゼンテーション評価点（80％）及び授業参加への積極性を重視する平常点（20％）により評価する。
備考	

科目概要

学科名	建築・インテリアデザイン科		
科目コード	2026SD36		
授業科目名	建築設備 I		
単位数	3		
必修・選択の別	必修		
対象コース	共通		
開講年次	2年次	開講時期	前期
授業方法	講義		
実務経験のある教員による授業科目	該当する		

シラバス

授業内容	設備設計事務所での勤務実績がある者が、その経験を生かし建築設備（給排水・冷暖房・換気・電気・防災）の基本的知識の理解を目標にし、建築物における設備の重要性を説く
到達目標	建築物の設備を設計したり、工事を行う上で理解しておかなければならない設備の基礎的な知識を身につける。又、生活の中で設備を理解し、生活の向上の為にも役立てる。
授業計画	第 1回 建物における設備の位置づけと設備の歴史を理解させる 設備の重要性と設備系の資格などを説明 第 2回 室内の環境と熱負荷を理解させ熱負荷計算を理解させる 室内環境の法的基準、冷房負荷、暖房負荷、顕熱負荷、潜熱負荷を説明 第 3回 湿り空気線図を理解させる、空調機の決定方法を理解させる 混合による空気状態の変化と冷却、加熱、除湿、加湿を説明 第 4回 空気調和方式と冷凍サイクルのしくみを理解させる 空気方式、水方式、冷媒方式を説明 第 5回 単一ダクト方式とダクト寸法決定方法、ダクト静圧を理解させる VAV方式とCAV方式の説明とゾーニングを説明 制気口の種類を説明 第 6回 熱源の種類を理解させる 圧縮式冷凍機、吸収式冷凍機、パッケージエアコン、ボイラー、冷却塔・ポンプの説明 第 7回 換気設備と排煙設備の目的と方式と法規を理解させる 自然換気、機械換気、自然排煙、機械排煙の説明 換気方式と換気量算出と排煙量算出方法を説明 第 8回 給水設備方式と汚染防止対策を理解させる 給水タンクの法規、クロスコネクション、逆サイホン現象などの説明 給水量の求め方、配管サイズの求め方を説明 第 9回 給湯設備方式と熱源の種類を理解させる 給湯量の求め方、配管サイズの求め方、空気抜き、膨張対策・伸縮対策を説明 第10回 排水通気設備方式と通気管の必要性を理解させる 配管サイズの求め方、勾配、排水トラップの必要性を説明 第11回 ガス設備と衛生器具設備を理解させる 都市ガスとプロパンガスの説明と法規の説明 衛生器具の種類と説明、器具の選定方法を説明 第12回 消火設備の種類と法規を理解させる 消火器、屋内消火栓、スプリンクラー、泡消火、連結送水管などの説明 第13回 電気設備の役割と分類と法規を理解させる 電流、電圧、電力と電力量の説明 第14回 受変電設備、発電・蓄電池設備、幹線設備を理解させる 受電方式、太陽光発電、風量発電の説明 電気方式（電灯系統、動力系統）配線方式、接地の説明 第15回 動力設備、照明コンセント設備 始動方式の説明、照明の用語と単位、照度基準の説明 照明方式と照度計算を説明
教科書	学芸出版社「基礎講座 建築設備」
成績評価方法	定期試験（８０％）及び授業参加への積極性を重視する平均点（２０％）により評価する。
備考	

科目概要

学科名	建築・インテリアデザイン科		
科目コード	2026SD37		
授業科目名	建築法規		
単位数	2		
必修・選択の別	必修		
対象コース	共通		
開講年次	2年次	開講時期	前期
授業方法	講義		
実務経験のある教員による授業科目	該当する		

シラバス

授業内容	建築基準法は社会情勢の変化等に応じて改正され、複雑化している。建築及び都市の計画、構造環境の全体像を把握するために、建築及び都市に関する法規や建築手法にわたる全般について修得する。
到達目標	建築物が設計から建設までの段階で様々な建築基準法の規定を受けているということを認識した上で、建築基準法令の読み方や解釈の仕方を身に付け、建築基準法の内容と趣旨を正確に理解するための力を修得する。
授業計画	第1回 概要・建築基準法の基本定義
	第2回 建築基準法に関わる手続き
	第3回 建築基準法の一部が適用されない建築物
	第4回 敷地・面積・高さについて
	第5回 採光・換気に関する基準、構造・設備に関する基準
	第6回 都市計画区域・道路の定義、用途地域による建築制限
	第7回 面積・高さの制限
	第8回 防火地域・準防火地域の建築制限、防火制限・内装制限
	第9回 避難施設、構造強度
	第10回 基準法のその他の規定、その他の法律
教科書	図説 やさしい建築法規(学芸出版社)
成績評価方法	定期試験(80%)及び授業参加への積極性を重視する平常点(20%)により評価する。
備考	

科目概要

学科名	建築・インテリアデザイン科		
科目コード	2026SD38		
授業科目名	C A D 演習B		
単位数	3		
必修・選択の別	必修		
対象コース	共通		
開講年次	2年次	開講時期	通年
授業方法	演習		
実務経験のある教員による授業科目	該当する		

シラバス

授業内容	VectorWorksを利用した2次元製図技法及び3Dモデリングの描画法を修得する。 視点のシュミレーション等を通じ、体感的に立体把握をするとともに、図面表現やシュミレーションを活用したプレゼンテーションにかかる技術までを目的とする。
到達目標	・課題建築図面を読み取り、BIM対応の3Dモデリングを制作する技術を修得する。 ・1つのファイルで2Dと3Dの切り替えをスムーズに行えるハイブリッド構造をもった図面描画方法を修得する。 ・グラフィックソフト（Illustrator）との連携の方法及び様々なレンダリング方法を駆使し、画像処理ソフト（photoshop）でのレタッチを学び、よりリアルなレンダリング画像を制作する技術を修得する。またAIツールを使ったフォトリアルな画像生成のための技術も修得する。
授業計画	第1～10回 VectorWorksの基本操作
	第11～18回 2D図面演習（平面図、立面図、展開図 1/100）
	第19～20回 プレゼンテーションボード作成
	第21～24回 3Dモデリング演習（シンボル家具、テーブル、ソファ、収納棚、テレビボード）
	第25～26回 3Dモデリング演習（壁の立ち上げ方、開口部の入れ方、光源の入れ方、光の調整方法）
	第27回 3Dモデリング演習（シートレイヤ、ビューポートの活用方法）
	第28回 3Dモデリング演習（シートレイヤ、ビューポートの活用方法）
	第29～34回 3Dコマンドで建築図面を描く（戸建て住宅の3Dモデリングから2D 建築図面の書き出し）
	第35～36回 3Dモデリング演習（レンダリング種類の説明、応用）
	第37～38回 3Dモデリング演習（他ソフトと連携し、レンダリングパースの制作）
	第39～40回 プレゼンテーション図面としてまとめる
教科書	最短で学ぶVectorworks建築製図とプレゼンテーション及び担当教員において配布資料制作
成績評価方法	各製図課題における作品評価点（70%）及び授業参加への積極性を重視する平常点（30%）により評価する。
備考	

科目概要

学科名	建築・インテリアデザイン科		
科目コード	2026SD39		
授業科目名	ビジネス概論		
単位数	1		
必修・選択の別	必修		
対象コース	共通		
開講年次	2年次	開講時期	前期
授業方法	講義		
実務経験のある教員による授業科目	-		

シラバス

授業内容	・ ビジネスの構造・仕組み、利益構造の基礎的な知識を学習する ・ 経営あるいはプロジェクトを成功させるために必要なプロセスを体系的に学ぶ ・ 経営コンサルタントである中小企業診断士が具体例を交えて指導
到達目標	・ これからのビジネス社会で活躍するための基礎知識を身につける ・ 企業活動の特徴について理解を深める
授業計画	第1回 ビジネスの基本について
	第2回 売上と利益はどちらが大事なのか？
	第3回 利益の種類～営業利益・経常利益
	第4回 営業利益を増やすためには？～売上原価・販売費及び一般管理費
	第5回 儲けを増やす工夫～小売業
	第6回 儲けを増やす工夫～飲食業
	第7回 ビジネスプランの基本～計画書作成の重要性
	第8回 ビジネスプランの立て方
	第9回 アイデアの整理
	第10回 ビジネスモデルの検討～3C分析
	第11回 売上予測の方法
	第12回 事業収支計画の考え方
	第13回 税金やビジネスに必要な手続きのお話
	第14回 今後のビジネス展望について①
	第15回 今後のビジネス展望について②
教科書	創業の手引(日本政策金融公庫)ほか
成績評価方法	定期試験(80%)及び授業参加への積極性を重視する平常点(20%)
備考	

科目概要

学科名	建築・インテリアデザイン科		
科目コード	2026SD40		
授業科目名	家具デザイン演習		
単位数	1		
必修・選択の別	必修		
対象コース	共通		
開講年次	2年次	開講時期	後期
授業方法	演習		
実務経験のある教員による授業科目	該当する		

シラバス

授業内容	家具を単なる生活の道具ではなく「ヒト・コト・モノの関係性を変える装置」と定義し、既存の概念を解体・再構築するプロセスを通じて新たな家具のあり方を追求する。日常生活における身体行為や心理的作用を深く洞察し、家具という枠組みを超えた独創的なアイデアを形にする思考力と表現力を養う。
到達目標	既存の家具の機能や形態を多角的に分析し、豊かな発想力をもって独自の視点で家具を再定義できる。説得力のある造形や使用シーンとして可視化し、デザイン力と表現力の向上を図るとともに、使う人の感性に響き豊かなライフスタイルを直感させるプレゼンテーションとして具体化し、発信する提案力を身につける。
授業計画	・ 第1回：課題説明・家具デザインの考察と概念の分解 課題内容の解説と、既存の家具の役割の考察と再定義を行う。
	・ 第2回～第3回：リサーチの実践と関係性の洞察 提示された課題に基づく調査・研究を行い、ヒト・コト・モノの相関関係から家具が介在することで生まれる新しい価値や課題を抽出する。
	・ 第4回：コンセプト立案と家具の再定義 リサーチ結果から独自の設計指針を策定し、デザインの構想を立案する。
	・ 第5回～第6回：デザインスタディと多角的な検証 エスキスを重ね、定義したコンセプトを具体的な造形や機能へと落とし込み、デザインの吟味と調整を繰り返す。
	・ 第7回：中間プレゼンテーション・講評 企画デザインを説明し、教員や他者との対話を通じて、提案の独創性と客観的な説得力、及びデザインの完成度を精査する。
	・ 第8回～第9回：デザインの具現化とプレゼンテーション制作 中間講評でのフィードバックに基づきデザインを精査し、より完成度高い提案資料へとまとめる。
	・ 第10回：最終プレゼンテーション・講評 プレゼンテーションにより作品の魅力の発信と、提案力の向上を図る。
教科書	特に指定しない
成績評価方法	提出課題・プレゼンテーション評価点（80%）及び授業参加への積極性を重視する平常点（20%）により評価する。
備考	

科目概要

学科名	建築・インテリアデザイン科		
科目コード	2026SD41		
授業科目名	建築設計B		
単位数	4		
必修・選択の別	必修		
対象コース	建築デザイン/建築エンジニアリング		
開講年次	2年次	開講時期	前期
授業方法	演習		
実務経験のある教員による授業科目	該当する		

シラバス

授業内容	建築設計業務の経験を持つ教員の指導により、比較的中規模集合住宅及び公共施設について各々課題を設定し演習を行う。建築計画が実際の設計でどのような役割を持っているのか実感し、また建築が地域や環境とどう結びついていかなければならないのかを考え、建築設計を行う者に必要な総合的な視野・知識・能力を養成する。	
到達目標	建築計画Ⅰで履修した内容を基に、各種建築物設計に必要な検討事項をリストアップし、設計条件として整理できる能力を身につける。複雑に絡み合う様々なプログラムを論理立てて整理し、秩序を持った空間提案ができる能力を身につける。高齢者等様々な人々の身体特性を理解し、建築が障害を作らぬよう配慮できる意識を身につける。建築と社会との関わりやその意義を理解する。	
授業計画	第1回	課題説明(集合住宅)・資料収集・敷地環境等条件の整理
	第2～5回	エスキス1(コンセプト立案・ゾーニング・配置計画)
	第6～10回	エスキス2(ボリュームスタディ・平面・立面・断面図の検討)
	第11回	中間講評
	第12～15回	エスキス3(ボリュームスタディ・平面・立面・断面図の検討)
	第16～19回	平面・立面・断面図・模型等必要表現の作成
	第20回	プレゼンテーション・講評
	第21回	課題説明(美術館)・資料収集・敷地環境等条件の整理
	第22～25回	エスキス1(コンセプト立案・ゾーニング・配置計画)
	第26～30回	エスキス2(ボリュームスタディ・平面・立面・断面図の検討)
	第31回	中間講評
	第32～35回	エスキス3(ボリュームスタディ・平面・立面・断面図の検討)
	第36～39回	平面・立面・断面図・模型等必要表現の作成
	第40回	プレゼンテーション・講評
教科書	特に指定しないが、資料を配布する。	
成績評価方法	提出課題(70%)、プレゼンテーション(10%)授業参加への積極性を重視する平常点(20%)により評価する。	
備考		

科目概要

学科名	建築・インテリアデザイン科		
科目コード	2026SD42		
授業科目名	木構造計画演習		
単位数	1		
必修・選択の別	必修（建築デザイン/建築エンジニアリング）選択必修（インテリアコーディネート/商業空間デザイン）		
対象コース	建築デザイン建築エンジニアリングインテリアコーディネート商業空間デザイン		
開講年次	2年次	開講時期	通年
授業方法	演習		
実務経験のある教員による授業科目	該当する		

シラバス

授業内容	木構造を専門とする現役建築士が、設計業務に携わった事例プランを用いて、軸組配置の検討や接合金物選定等の解説、指導を行い、実施設計、確認申請に通用する実践的な構造検討とそのプロセスや安全性の確認について学ぶ。
到達目標	木構造の意匠と構造とのバランスを理解し、建築基準法に基づく耐力壁の配置や接合金物の選定についての知識・手法を習得する。
授業計画	第 1 回 [木質構法の特徴] 各工法の概要、各種図面の理解及び必須記載事項について学ぶ
	第 2-3 回 [筋かい] 筋かいの平面配置・仕口・変形と応力状態・引張と圧縮について学ぶ
	第 4-9 回 [4 分割法・壁の倍率] 筋交・耐力壁の種類と倍率、位置、数量による構造バランス計画について学ぶ
	第10-12回 [地震力・風圧力] 必要壁量、存在壁量の算出、地震力/風圧力に対する平面/立面計画について学ぶ
	第13-15回 [存在壁量と壁配置・壁量充足率の検討] 必要壁量と存在壁量の比較、バランスと充足を検討する
	第16-18回 [柱頭柱脚金物検討] 告示とN値計算に基づいた金物の選定方法について学ぶ
	第19-24回 [伏図] 検討した軸組を元に〈基礎・床・小屋・屋根・柱〉それぞれの伏図を検討する
	第25-30回 [矩計図] 検討した伏図を元に、矩計図を描く
教科書	[図解]建築の構造と構法 〈井上書院〉
成績評価方法	課題〈軸組検討表・伏図・矩計図〉の検討結果と精度について採点(80%)及び授業参加への積極性を重視する平常点(20%)により評価する
備考	

科目概要

学科名	建築・インテリアデザイン科		
科目コード	2026SD43		
授業科目名	卒業制作B		
単位数	11		
必修・選択の別	必修		
対象コース	建築エンジニアリング		
開講年次	2年次	開講時期	通年
授業方法	演習		
実務経験のある教員による授業科目	該当する		

シラバス

授業内容	建築設計、設備、施工及びインテリアコーディネートなど空間デザイン分野の実務経験をもつ教員により、学生各自が自由に設定したテーマに対し、これまで習得してきた建築領域に関する芸術・工学に亘る専門的な知識や技術等を使い、これからの社会への問題提起・解決に向けての提案を行っていく。		
到達目標	・これまでの建築領域における技術の進歩や特徴を理解し、それを基に、これからあるべき空間デザイン領域の姿を思索し、自身の考えとして論ずることができる。 ・現代もしくは未来社会に対して空間デザイン領域からの問題提起を行うことができ、問題解決の為の具体的な提案を作成できる能力を習得する。		
授業計画	第1～2回	卒業制作概要説明・制作スケジュールの設定	
	第3～7回	制作案(テーマ)の検討	
	第8回	制作案(テーマ)の絞込み	
	第9～14回	制作案(方針)の検討	
	第15回	制作案(方針)プレゼンテーション	
	第16～30回	基礎調査・研究・分析	
	第31～35回	コンセプト設定・諸条件整理	
	第36～38回	中間報告書作成	
	第39～40回	中間プレゼンテーション・講評	
	第41～50回	エスキス1(基本構成・配置・ゾーニング等)	
	第51～60回	エスキス2(平面、立面、断面の検討・ボリュームスタディ)	
	第61～62回	設計案中間プレゼンテーション・講評	
	第63～70回	エスキス3(講評に基づく設計案の再検討)	
	第71～107回	平面・立面・断面図・模型等必要表現の作成	
	第108～110回	プレゼンテーション・講評	
	教科書	特になし	
成績評価方法	卒業制作における作品評価点(70%)、プレゼンテーション(10%)及び授業参加への積極性を重視する平常点(20%)により評価する。		
備考	制作中のチェックは担当教官が随時行う		

科目概要

学科名	建築・インテリアデザイン科		
科目コード	2026SD44		
授業科目名	構造力学Ⅱ		
単位数	2		
必修・選択の別	必修（建築デザイン/建築エンジニアリング）選択必修（インテリアコーディネート/商業空間デザイン）		
対象コース	建築デザイン建築エンジニアリングインテリアコーディネート商業空間デザイン		
開講年次	2年次	開講時期	前期
授業方法	講義		
実務経験のある教員による授業科目	該当する		

シラバス

授業内容	構造力学Ⅰの基礎知識を基盤とし、実践的な演習を通じて建築構造計算の手順全体を学習する。主な内容は、不静定構造物の崩壊荷重、たわみ公式に基づく柱の水平剛性の算定、許容応力度設計法に基づいた部材の安全性の検討となる。また、塑性解析の概要を解説し、大地震時の安全性を評価する保有水平耐力計算（二次設計）の手法について習得を図る。
到達目標	不静定構造物の応力解析及び剛比の算出手法を修得する。部材の変形（たわみ量・たわみ角）の理論を理解し、水平剛性を算出できる。塑性解析による崩壊メカニズムを理解し、構造物の限界状態について考察できる。保有水平耐力計算の基礎を学び、建築物の二次設計に関する一連のプロセスを理解する。
授業計画	第1回：基礎復習 反力算定・部材応力の算出及び応力图の作成など、発展的な問題を解くための基礎知識の復習を行う。 第2～3回：応力度とひずみ度 応力度のσ・σ_b・τ及びひずみ度εの相関関係を理解し、許容応力度設計に基づく部材の安全性の検討手法を修得する。 第4～5回：たわみ量・たわみ角 代表的な梁の形式に応じたたわみのδ・θ及びradの計算方法を学ぶ。さらに、たわみ公式を用いた柱の水平剛性を求める。 第6～7回：不静定構造の基礎 不静定構造物の力の伝わり方を学ぶ。剛度Kより剛比を算出し、曲げモーメント図の作成方法について演習を行う。 第8～9回：弾性と全塑性モーメント 弾性と塑性の性質を理解し、鋼材の塑性領域を考慮した全塑性モーメントの計算手法を学ぶ。 そして、建築物の崩壊に至るまでのプロセスを学習する。 第10～11回：崩壊荷重 不静定構造物の崩壊荷重を学習し、仮想仕事の原理に基づく変位量と回転角の関係を理解する。 また、荷重と変形の関係をグラフを用いて解析する。 第12～13回：不静定ラーメン造の解法 不静定ラーメンの塑性ヒンジの発生を理解し、外力と内力の仕事の釣り合いを計算する。 加えて、保有水平耐力の算定手法を修得する。 第14～15回：二次設計のプロセスまとめ・地震や振動など 一次設計と二次設計の整合性を整理し、大地震を想定した安全評価の一連のプロセスを学習する。 建物の固有周期計算や、地震の震度及び加速度が建物に与える影響を学ぶ。 建築物が多角的な視点から構造計算され、安全性が確保されていることを全体のまとめとして理解する。
教科書	図解やさしい構造力学（学芸出版社）
成績評価方法	各単元終了時に行う確認テスト（2割）、及び期末試験（7割）で評価し、授業参加への積極性を重視する平常点（1割）で評価する。
備考	

科目概要

学科名	建築・インテリアデザイン科		
科目コード	2026SD45		
授業科目名	建築計画Ⅱ		
単位数	1		
必修・選択の別	必修（建築デザイン/建築エンジニアリング）選択必修（インテリアコーディネート/商業空間デザイン）		
対象コース	建築デザイン建築エンジニアリングインテリアコーディネート商業空間デザイン		
開講年次	2年次	開講時期	前期
授業方法	演習		
実務経験のある教員による授業科目	該当する		

シラバス

授業内容	建築計画学において策定された要点の整理を行い、与えられた課題敷地に設定された用途の建築を設計計画する演習を行う。1ターム2回で構成し、5課題(木造住居系、RC造住居系、公共建築系、商業建築系2課題)を課す。
到達目標	与えられた課題敷地に対し、必要条件を的確に整理し、建築計画Ⅰで修得した計画手法を理解し、基本計画することができる。
授業計画	第1回 木造住居系課題（要点整理・設計方針策定・エスキス） 第2回 木造住居系課題（基本計画・設計図制作） 第3回 RC造住居系課題（要点整理・設計方針策定・エスキス） 第4回 RC造住居系課題（基本計画・設計図制作） 第5回 公共建築系課題（要点整理・設計方針策定・エスキス） 第6回 公共建築系課題（基本計画・設計図制作） 第7回 商業建築系課題A（要点整理・設計方針策定・エスキス） 第8回 商業建築系課題A（基本計画・設計図制作） 第9回 商業建築系課題B（要点整理・設計方針策定・エスキス） 第10回 商業建築系課題B（基本計画・設計図制作）
教科書	担当教員において配布資料制作
成績評価方法	各製図課題における作品評価点（80％）及び授業参加への積極性を重視する平常点（20％）により評価する。
備考	

科目概要

学科名	建築・インテリアデザイン科		
科目コード	2026SD46		
授業科目名	建築環境工学		
単位数	2		
必修・選択の別	必修（建築デザイン/建築エンジニアリング）選択必修（インテリアコーディネート/商業空間デザイン）		
対象コース	建築デザイン建築エンジニアリングインテリアコーディネート商業空間デザイン		
開講年次	2年次	開講時期	前期
授業方法	講義		
実務経験のある教員による授業科目	該当する		

シラバス

授業内容	住宅設計の仕事に従事する現役建築士が、その見識や経験を活かして講義をする。建築設計を進める際に必要な環境工学の要素である音・光・空気・温熱・水環境とそこで生活活動する人間の関りについて基礎概念を理解する。
到達目標	各單元ごとに基礎知識を習得した後にテストを行い、目標の達成度合いを確認する。特に熱環境と光環境については、熱移動の基本事項、温熱環境、日射・日照、採光、照明などについて説明し、建築物の室内および周辺環境を計画するための基礎知識を修得させる。
授業計画	第 1-3 回 [概要・光環境]
	視覚・照度・輝度・照度計算
	第 4-6 回 [光環境]
	昼光・人工照明・照明計画・光束法
	第 7-9 回 [温熱環境]
	熱の移動・熱伝達・熱伝導・熱貫流量
	第10-12回 [温熱環境]
	室温・熱取得・熱損失・熱損失係数・断熱性能
	第13-15回 [温熱環境]
	湿度・結露・空気線図・体感温度・温度環境指数・太陽と日射・日影曲線
	第16-18回 [空気環境]
	シックハウス症候群・風圧力換気・温度差換気・機械換気
	第19-21回 [空気環境]
	換気計画・通風
	第22-24回 [音環境]
	音のしくみ・単位・レベル表示・レベルの合成・聴覚と音の生理心理
	第25-27回 [音環境]
	音の伝わり方・吸音・遮音・遮音等級・残響・反響・振動・騒音
	第28-30回 [地球環境]
	地球温暖化・ヒートアイランド・大気汚染・水質汚濁
教科書	初めての建築環境(学芸出版社)
成績評価方法	定期試験(80%)及び授業参加への積極性を重視する平常点(20%)により評価する。
備考	

科目概要

学科名	建築・インテリアデザイン科		
科目コード	2026SD47		
授業科目名	積算Ⅰ		
単位数	1		
必修・選択の別	必修（建築デザイン/建築エンジニアリング）選択必修（インテリアコーディネート/商業空間デザイン）		
対象コース	建築デザイン建築エンジニアリングインテリアコーディネート商業空間デザイン		
開講年次	2年次	開講時期	前期
授業方法	講義		
実務経験のある教員による授業科目	該当する		

シラバス

授業内容	住宅メーカーで積算業務に携わった経験を持つ教員が、建築数量積算基準に基づき、各工種ごとに材料算出方法を講義する。概要の解説を行った後に、電卓やスケールを用いて、教科書の図面及び仕様を確認しながら部材積算を行い、基礎手順を解説。工種ごとの単位や所要数量の違いを理解し、材料ごとに正確な拾い出しが行えるよう実践的な講義を行う。
到達目標	工事費の構成及び工程別の積算の流れを理解する。建築材料を各工種ごとに正確な拾い出し作業ができる力を身につける。項目ごとに拾い出し単位の違いや、割増率の違いを理解する。適切に電卓やスケールを使用できる。
授業計画	第1～3回：積算の種類・数量計算の流れ・粗利計算 積算の実務の流れを解説し、概算積算・明細積算の種類及び工事費の構成全体を把握する。実行予算書の粗利の計算を演習する。 第4～6回：土工・地業の積算 根切り量及び整地数量の積算を実践する。根切り深さに応じた土量（普通度）係数や余幅等の理解を深める。 第7～9回：鉄筋・型枠の積算 所要数量による鉄筋の拾い出しやその割増率、設計数量による型枠の拾い出しや開口部の差し引きの扱いなどを学習する。 第10～12回：コンクリート数量の積算 フーチング数量を積算するための基礎（ぎ柱）の体積算出公式を学習し、ベースコンクリートと合算して積算する流れを理解する。 第13～15回：鉄骨の積算 複雑な形状の鋼板類の欠除部分やダクト孔の扱いをそれぞれ学習し、単位質量を乗じて積算する流れを修得する。 第16～18回：木造の積算 構造材と羽柄材の分類を理解し、引き立て寸法や市場寸法に気を付けながら正確な本数が拾い出しできるよう演習を行う。 第19～21回：新建材の積算 大工工事と密接に関わる新建材の拾い出しを、電卓の機能を駆使して正確かつ迅速に積算できるよう実践演習を重ねる。 第22～24回：左官・タイルの積算 仕上材の割付を検討し、適切な数量が算出できるよう玄関タイルや普通ブロック工事の拾い出しを行う。役物の扱いも理解する。 第25～27回：塗装・建具の積算 建具形状に応じた塗装係数を確認し、糸幅寸法に留意して正確な数量が拾い出しできるようになる。 第28～30回：板金・溶接・その他雑工事の積算 板金樋工事の各部材を理解し、縦樋長さの算出方法を修得する。溶接継目の表示を理解し、換算率より溶接長さを算出する。
教科書	初めての建築積算（学芸出版社）
成績評価方法	定期試験（80％）及び授業参加への積極性を重視する平常点（20％）により評価する。
備考	

科目概要

学科名	建築・インテリアデザイン科		
科目コード	2026SD48		
授業科目名	施工Ⅱ		
単位数	3		
必修・選択の別	必修（建築エンジニアリング）選択必修（インテリアコーディネート/商業空間デザイン）		
対象コース	建築エンジニアリングインテリアコーディネート商業空間デザイン		
開講年次	2年次	開講時期	通年
授業方法	演習		
実務経験のある教員による授業科目	該当する		

シラバス

授業内容	建築工事着工前から完成に至るまでの工程全般に関して、施工監理者として必要な専門的知識を解説する。具体的には、実際の現場に応じた工程表の作成方法や日数計算・品質管理の考え方・各工種別に専用機械を用いた施工納まりの詳細・重複する工事の施工手順の要点などを講義する。さらに、地積測量方法を学び、測量や標高の計算が実践できるよう理解を深める。
到達目標	施工計画書及び設計図書を確認しながら工程表を作成することができる。基本施工を理解した上で、さらに各工種ごとの専門的な施工詳細と手順を修得する。また、各測量方法を理解し、標高や平板測量の移動量などの基本計算ができる。
授業計画	第1回：施工管理・ネットワーク工程計算 工事監理者として重要な品質管理の考え方であるデミングサークルやTQCの学習をする。ネットワーク工程表の計算演習を行う。
	第2回：工程表作成演習 バーチャート工程表の作成演習を行う。実際の層を確認して、建築物の規模に応じた新築工事の工程表を作成する。
	第3回：仮設工事 仮設計画で検討が必要な工事の要点や各種規定を理解する。仮設の種類を把握し、安全設備の適切な設置方法を学習する。
	第4回：土工事・地盤工事 山留め工法の分類とその工法詳細を学習する。また、地盤条件に適應する排水工法の種類を把握し、排水工事の理解を深める。
	第5回：杭工事・地盤改良工事 地盤調査結果に応じた表層地盤改良や杭工事の各種工法を学習する。既成杭と場所打杭の違いや、孔壁保護の種類を理解する。
	第6回：鉄筋工事Ⅱ 鋼材の特徴を理解した上で、組立時に留意すべき補強筋や幅止筋の配置方法及び継手や定着の適切な位置範囲などを学習する。
	第7回：型枠工事 型枠の基本計画・設計基準・側圧の基礎知識を学習する。型枠の材料を理解し、さらに支保工の組立時の留意事項を学ぶ。
	第8回：溶接工事 溶接接合の特徴やその種類を確認し、種類ごとに重要な脚長や間隔及び余盛りの適切な仕上がりを理解する。
	第9回：コンクリート工事・ALC工事 コンクリートの基本工事を理解した上で、品質管理や検査方法、さらに強度推定のための試験方法や特殊工事などを学習する。
	第10回：枠組壁工法・造作工事 枠組壁工法（ツーバイフォー）工法の基本構造を学習する。細部の納まりと接合方法を理解する。
	第11回：防水工事 メンブレン防水工事の種別を理解し、適切な施工手順を学習する。また、漏水を防ぐ押さえ金物やシーリング納まりを修得する。
	第12回：設備工事 給排水工事の要点に触れ、適切な配管材料選定方法や留意すべき埋設寸法や勾配寸法などを理解する。空調換気設備等も学ぶ。
	第13回：金属工事 屋根や外壁で使用するガルバリウム鋼板や銅板の葺き方の基本を学習し、樋工事やスレート葺きの標準納まりも理解する。
	第14回：施工機械器具 揚重や運搬機械に加え、土工事用や杭打機など専門機械の名称と使用目的を理解し、各種アタッチメントの用途も学習する。
	第15回：測量 各種測量の基本手順を学び、使用道具や機械の扱い方を理解する。また、測量閉合誤差や側角誤差の計算方法を学習する。
教科書	専門士課程 建築施工（学芸出版社）
成績評価方法	授業前半終了時点での中間試験（3割）及び期末試験（6割）で評価し、授業参加への積極性を重視する平常点（1割）で評価する。
備考	

科目概要

学科名	建築・インテリアデザイン科		
科目コード	2026SD49		
授業科目名	建築設備Ⅱ		
単位数	3		
必修・選択の別	必修（建築エンジニアリング）選択必修（インテリアコーディネート/商業空間デザイン）		
対象コース	建築エンジニアリングインテリアコーディネート商業空間デザイン		
開講年次	2年次	開講時期	後期
授業方法	演習		
実務経験のある教員による授業科目	該当する		

シラバス

授業内容	設備設計事務所での勤務実績がある者が建築設備の設計図作成方法を実務を通して説く。又、設備図の読み取り方を説く。 給排水設備、空調換気設備、電気設備の設計図作成の流れや作成する際の注意点を学ぶ。
到達目標	設備図を読み取り、工事内容の情報を正確に得ることが出来るようになる。簡易な設備図を作成することが出来るようになる。
授業計画	第1回 設備設計図の役割と、見やすく読みやすい設計図を学ぶ 第2回 配管図作成の為の約束事を学ぶ・ライフラインを学ぶ 第3回 住宅の給排水図作成（課題①）提出物 第4回 住宅の給排水図作成（課題①）提出物 第5回 公衆便所の給排水図作成（課題②）提出物 第6回 公衆便所の給排水図作成（課題②）提出物 第7回 住宅の空調換気図作成（課題③）提出物 第8回 住宅の空調換気図作成（課題③）提出物 第9回 空調ダクト図作成（課題④）提出物 第10回 排煙ダクト図作成（課題⑤）提出物 第11回 特記仕様書を学ぶ 機器一覧表を学ぶ 第12回 系統図作成 詳細図作成 第13回 電気設備図の読み取り方を学ぶ 第14回 電気設備図の読み取り方を学ぶ 第15回 設計図と施工図の違いを学ぶ
教科書	オーム社 やさしい建築設備図面の見方・かき方
成績評価方法	課題①～⑤の採点により評価する。
備考	

科目概要

学科名	建築・インテリアデザイン科		
科目コード	2026SD50		
授業科目名	積算Ⅱ		
単位数	1		
必修・選択の別	必修（建築エンジニアリング）		
対象コース	建築エンジニアリング		
開講年次	2年次	開講時期	後期
授業方法	演習		
実務経験のある教員による授業科目	該当する		

シラバス

授業内容	住宅メーカーで積算業務に携わった経験を持つ教員が、実行予算書の作成や内訳明細書作成等の業務演習の授業を行う。実務同様にExcelを使用してそれぞれ雛形原本を作成し、各項目の割増率や利益掛け率の設定を行い、設計図書や仕様書から拾い出した数量をデータ入力する。また、積算業務と密接に関係する発注書や請書の基礎知識、粗利率や施主提示額の計算方法など、資金に関係する全体の流れも把握し、工務積算として即戦力となる演習を行う。
到達目標	Excelで実行予算書及び内訳明細書の雛形を作成し、各項目に関数入力ができ、適切な時間内に設計図書からの拾い出し及び数量打ち込み作業を行うことができる。原価率・粗利率を理解し、適切な提示金額の計算方法を習得できている。新建材及び羽柄材の拾い出し業務ができる。予算書に加え、発注書・請書の役割と連動性を理解できる。
授業計画	第1～3回：業務の要点・実行予算書と内訳明細書概要・エクセル雛形作成 作成する実行予算書と内訳明細書の概要の確認を行う。また、Excelにて雛形の原本作成に取り掛かり、関数入力を行う。 第4～6回：関数入力・積算見積用図面記載・入札依頼と拾い出しの区別・発注や請書 Excel雛形を完成させ、各工種ごとに基本項目の入力を行う。また、実行予算書に連動している発注書や請書の内容も理解する。 第7～9回：基礎伏図・土台伏図・プレカット図を確認した数量拾い 実際の設計図面を基に基礎工事・木材の土台や構造材の積算作業演習に取り組み、集計結果をExcelデータに入力を行う。 第10～12回：入札見積書の整理・開口部建具チェックバック・部材アクセサリ類拾い出し 相見積もりの依頼及びその集計作業の流れを学習し、見積結果を入力する。内装建具やその金物の積算も行う。 第13～15回：新建材明細の拾い出し・羽柄材の数量拾い 積算Ⅰで学習した新建材拾い出し作業を各自で取り組み、木材羽柄材も和室の仕様に応じて積算をする。 第16～18回：実行予算書の入力打ち込み 残りの工種を各自設計図面より積算して入力作業を行う。仕上げ工事に関しても同様に図面より拾い出しをする。 第19～21回：実行予算書の入力完成・チェックバック 値入れ作業として、市場単価や歩掛かり単価を参考に図面から積算を行い、Excelデータの打ち込み作業を進める。 第22～24回：内訳明細書の入力打ち込み 完成した実行予算を基に、施主へのお見積書及び詳細な内訳明細書の作成に取り掛かる。施主への説明のしやすさを考慮する。 第25～27回：内訳明細書の入力完成・チェックバック 雑工事など、最後の細かい工種の積算漏れがないかをチェックし、請け額をExcelに打ち込み実行予算書と見積書を完成させる。 第28～30回：最終演習課題 最終の演習テストを行う。新規の設計図書と仕様書を基に、各自必要項目を積算し、見積書を制限時間内に完成させる。 正確性、速度、そしてExcelシートの使いやすさを総合評価する。
教科書	初めての建築積算（学芸出版社）
成績評価方法	授業の課題演習（30％）最終課題テスト（60％）及び授業参加への積極性を重視する平常点（10％）により評価する。
備考	

科目概要

学科名	建築・インテリアデザイン科		
科目コード	2026SD51		
授業科目名	建築造形演習Ⅱ		
単位数	2		
必修・選択の別	必修		
対象コース	建築デザイン		
開講年次	2年次	開講時期	後期
授業方法	講義		
実務経験のある教員による授業科目	該当する		

シラバス

授業内容	建築を構成する基本要素である線・面・ポリュームを起点に、比例、形態操作、組織化、分節化を段階的に学び、抽象造形を建築的・都市的構成へ展開する。
到達目標	① 線・面・ポリュームを用いて空間構成を説明できる。 ② 比例、分割、引き算、足し算、反復、近接、積層、分節などの造形操作を実践できる。 ③ 単体形態から集合、建築、敷地配置へ展開できる。 ④ 模型、ダイアグラム、簡易図面、短い言語化を通じて設計意図を伝達できる。
授業計画	第1回 線から空間をつくる 直線と曲線、柱列、軸線、密度差を扱い、線による場の成立を理解する。 第2回 面による囲いと開放 面の枚数と配置だけで空間性が変わることを検証する。 第3回 ポリュームスタディⅠ－基本立体の構成 キューブや直方体の接地・離隔・積層により、印象の差を学ぶ。 第4回 単体のかたちと象徴性 単体のかたちが用途や体験をどのように方向づけるかを検討する。 第5回 比例とスケール 同一構成でも比例差で印象が変わることを検証する。 第6回 ポリュームスタディⅡ－基本操作 造形を「つくる」よりも「操作する」思考へ移行する。 第7回 組織化－複数ポリュームのルール 配置ルールが建築や都市の秩序を生むことを学ぶ。 第8回 部分の集まり方－建築化への展開 集合を建築として成立させるための序列と関係を学ぶ。 第9回 分節化－内外・機能・構造を見える化する 全体のかたまりを、使われ方と見え方の両面から明快にする。 第10回 都市と建築の見え方－最終統合課題 最終的に建築を都市的文脈へ接続し、見え方まで設計する。
教科書	建築造形のスタディ ーかたちの構成・操作・展開ー（学芸出版社）
成績評価方法	平常制作・提出物 50%、講評時の応答・発表 20%、最終課題 20%、及び授業参加への積極性を重視する平常点10%。
備考	

科目概要

学科名	建築・インテリアデザイン科		
科目コード	2026SD52		
授業科目名	コンセプトメイキング概論		
単位数	1		
必修・選択の別	必修		
対象コース	建築デザイン		
開講年次	2年次	開講時期	前期
授業方法	講義		
実務経験のある教員による授業科目	該当する		

シラバス

授業内容	建築におけるコンセプトを、単なる造形上の発想ではなく、社会的・歴史的・制度的・環境的背景を読み解いたうえで、建築が応答すべき課題を定める思考の骨格として学ぶ。現代社会を多角的に分析し、それを建築的な問いへ変換する方法を理解し、卒業制作や設計課題に接続できる理論的基礎を養う。
到達目標	①建築コンセプトの意味を、テーマ・アイデア・設計操作との違いを含めて説明できる。 ②社会的背景を時間・歴史、制度、経済、身体、環境、技術などの視点から分析できる。 ③社会的課題を建築が扱うべき問いへ翻訳できる。 ④背景・問題・対象・操作・効果の関係としてコンセプトを整理できる。
授業計画	第1回 建築コンセプトとは何か 建築におけるコンセプトの定義を確認し、テーマ、アイデア、設計操作との違いを整理する。授業全体の目的と流れを理解する。 第2回 建築は何に回答してきたか 近現代建築の事例を通して、建築が社会状況や思想的背景に回答して成立してきたことを学ぶ。 第3回 時間・歴史・記憶を読む 場所を時間の堆積として捉える視点を学び、歴史性と記憶が建築の前提条件となることを理解する。 第4回 制度・法・所有を読む 法、制度、管理、所有のあり方が空間形成に及ぼす影響を理解する。 第5回 経済・消費・労働を読む 流通、消費、労働、資本が建築・都市に与える影響を考察する。 第6回 身体・孤立・共生を読む 身体感覚、居場所、距離感、排除と包摂の観点から建築が関わるべき問題を考える。 第7回 環境・生態・気候を読む 光、風、熱、水、植生、生態系など、人間以外の条件も含めて建築を考える。 第8回 技術・情報・ネットワークを読む 情報環境の変化が場所性や共同性をどのように変えているかを学ぶ。 第9回 社会的問題を建築的問いへ変換する 大きな社会問題を、そのまま扱うのではなく、建築が関与しうる単位に変換する方法を学ぶ。 第10回 建築にしかできないこと 政策、サービス、福祉、運営等と区別しながら、建築固有の介入可能性と限界を理解する。 第11回 コンセプトの構造 背景、問題、対象、操作、効果という構造で建築コンセプトを組み立てる方法を学ぶ。 第12回 コンセプトと空間原理 境界、重なり、距離、余白、循環、断面構成など、思考を空間原理へとつなぐ方法を学ぶ。 第13回 プログラム・敷地・利用者の再定義 コンセプトに基づいて、用途、敷地、利用者を再構成する視点を学ぶ。 第14回 批評と再編集 他者に伝え、批評を受けてコンセプトを焦点化・再構成する方法を学ぶ。 第15回 建築的宣言としてのコンセプト 授業全体を総括し、卒業制作や設計課題において建築的提案の核としてコンセプトを構築する意義を確認する。
教科書	指定しない。必要に応じて資料を配布する。
成績評価方法	平常点（出席、授業への積極性、発言、ディスカッション） 50%、最終レポート 50%
備考	

科目概要

学科名	建築・インテリアデザイン科		
科目コード	2026SD53		
授業科目名	コンセプトメイキング演習		
単位数	2		
必修・選択の別	必修		
対象コース	建築デザイン		
開講年次	2年次	開講時期	通年
授業方法	演習		
実務経験のある教員による授業科目	該当する		

シラバス

授業内容	概論で学んだ理論や分析視点をもとに、現代社会の背景を調査・観察・図解し、建築が応答すべき課題を抽出して、自身の設計提案の核となるコンセプトへまとめる。調査、マッピング、ダイアグラム、文章化、スタディ模型、講評を通して、社会への関心を建築提案へと転化する実践力を養う。
到達目標	①社会的背景や場の条件を調査・観察し、図や文章で整理できる。 ②問題意識を建築が扱うべき問いへ再構成できる。 ③コンセプトを文章、図、模型等によって表現できる。 ④講評を踏まえて案を修正し、説得力を高めることができる。 ⑤卒業制作や設計課題に展開可能なコンセプトボードを作成できる。
授業計画	第1回 自己の問題意識の可視化 現代社会や日常に対する違和感、関心、希望を抽出し、言葉と図で可視化する。 第2回 建築事例の背景分析 建築作品そのものではなく、その背後の社会的背景と問題設定を分析する。 第3回 時間軸による場所の読解 対象地や都市の変遷を調べ、過去・現在・未来の時間軸の中で場を把握する。 第4回 制度と空間の観察 制度、ルール、管理、所有によって生み出されている空間を観察する。 第5回 人・モノ・時間の流れの分析 経済活動や流通が空間の使われ方にどう現れるかを図式化する。 第6回 身体と居場所の観察 距離、滞在、視線、孤立、共生、排除・包摂の状態を観察・記録する。 第7回 環境条件のマッピング 光、風、熱、音、水、植生などの条件を読み取り、環境の層を可視化する。 第8回 情報と空間の関係分析 デジタル環境やネットワークが場の使われ方に与える変化を整理する。 第9回 問いの再構成 これまでの分析から、自分に取り組むべきテーマを3案に絞り、建築的問いへ書き換える。 第10回 建築介入範囲の設定 建築で変えられることと、建築以外が担うべきことを仕分けし、提案範囲を定める。 第11回 コンセプト文の作成 背景、問題、対象、操作、効果の関係を整理し、コンセプトを文章と概念図にまとめる。 第12回 空間原理への変換 コンセプトを境界、重なり、余白、循環、断面操作などの空間原理へ翻訳し、スタディする。 第13回 敷地・利用者・プログラムの設定 コンセプトに適した敷地、対象者、用途・プログラムを検討し、自ら設計条件を定義する。 第14回 中間講評と再編集 これまでの成果を統合したコンセプトボードを作成し、講評を受けて再編集する。 第15回 最終発表 社会的背景、建築的問い、空間原理、提案の意義を統合したコンセプトボードを発表する。
教科書	指定しない。必要に応じて資料を配布する。
成績評価方法	平常点（出席、作業姿勢、講評参加、提出状況） 20%、各回課題 40%、中間講評成果 15%、最終成果物（コンセプトボード・発表） 25%
備考	

科目概要

学科名	建築・インテリアデザイン科		
科目コード	2026SD54		
授業科目名	プレゼンテーション技法基礎		
単位数	1		
必修・選択の別	必修		
対象コース	建築デザイン		
開講年次	2年次	開講時期	後期
授業方法	演習		
実務経験のある教員による授業科目	該当する		

シラバス

授業内容	建築におけるプレゼンテーションは、設計意図を一方的に説明する行為ではなく、施主、利用者、審査者、社会に対して提案の価値を伝え、理解・共感・納得を得るための実践的技術である。建築分野では、学内講評、設計提案、コンペ、施主説明、就職活動など、プレゼンテーション能力が成果を大きく左右する。本授業では、プレゼンテーション未経験者を対象に、挨拶・態度・言葉遣いなどの基礎的社会性から始め、話の構成、視覚資料の見せ方、非言語表現、質疑応答の基本を段階的に学ぶ。講義を中心としつつ、短時間のワーク、観察、メモ作成、口頭共有を取り入れることで、学生が人前で伝えることへの不安を軽減し、建築提案を相手に伝える基礎的自信を獲得することを目指す。		
到達目標	①プレゼンテーションの目的を理解し、単なる説明ではなく、相手に価値を伝える行為として捉えられる。 ②建築プレゼンに必要な基本的態度、挨拶、言葉遣い、姿勢、聞く姿勢を理解し、適切に示すことができる。 ③建築提案を、結論、背景、課題、コンセプト、空間構成、期待される効果の流れで整理し、口頭説明の骨子を作成できる。 ④スライド、図面、模型写真、パース、ダイアグラム等の視覚資料の役割を理解し、伝わりやすい提示順序を考えることができる。 ⑤基本的な質疑応答に対して、落ち着いて対応し、不明な点を適切に認めつつ自分の考えを示すことができる。 ⑥プレゼンテーションに対する苦手意識を言語化し、自らの改善点を把握したうえで、今後の発表に向けた準備行動を取ることができる。		
授業計画	第1回	プレゼンテーションとは何か——建築学生に必要な社会性と第一印象 プレゼンテーションの意義と建築分野での役割を理解し、挨拶・姿勢・視線・言葉遣いなど、発表に必要な基礎的態度と社会性を学ぶ。	
	第2回	設計意図を言葉にする——建築プレゼンの構成とストーリー 建築提案を相手に伝わる順序で整理する方法を学び、結論・背景・課題・提案・効果から成る基本的な発表構成を理解する。	
	第3回	伝わる資料とは何か——図面・スライド・模型写真の見せ方 図面、パース、模型写真、スライド等の視覚資料の役割を理解し、情報の整理、提示順序、見やすく伝わる資料構成の基本を学ぶ。	
	第4回	話し方と質疑応答——声・姿勢・視線・不明への向き合い方 声量・話速・間・視線・立ち方などの話し方の基礎を学び、質疑応答における受け答えや不明点への適切な対応方法を理解する。	
	第5回	建築プレゼンの総合整理——自信をもって伝えるための準備 建築プレゼンテーションの全体構成を総括し、目的や相手に応じた伝え方、本番に向けた準備方法、自信を持って発表するための基本姿勢を学ぶ。	
教科書	指定しない。必要に応じて資料を配布する。		
成績評価方法	平常点(出席、作業姿勢、講評参加、提出状況) 40%、各回小課題 40%、最終課題 20%		
備考			

科目概要

学科名	建築・インテリアデザイン科		
科目コード	2026SD55		
授業科目名	卒業制作A		
単位数	12		
必修・選択の別	必修		
対象コース	建築デザインインテリアコーディネート商業空間デザイン		
開講年次	2年次	開講時期	通年
授業方法	演習		
実務経験のある教員による授業科目	該当する		

シラバス

授業内容	建築設計、設備、施工及びインテリアコーディネートなど空間デザイン分野の実務経験をもつ教員により、学生各自が自由に設定したテーマに対し、これまで習得してきた建築領域に関する芸術・工学に亘る専門的な知識や技術等を使い、これからの社会への問題提起・解決に向けての提案を行っていく。		
到達目標	・これまでの建築領域における技術の進歩や特徴を理解し、それを基に、これからあるべき空間デザイン領域の姿を思索し、自身の考えとして論ずることができる。 ・現代もしくは未来社会に対して空間デザイン領域からの問題提起を行うことができ、問題解決の為に具体的な提案を作成できる能力を習得する。		
授業計画	第1～2回	卒業制作概要説明・制作スケジュールの設定	
	第3～7回	制作案(テーマ)の検討	
	第8回	制作案(テーマ)の絞り込み	
	第9～14回	制作案(方針)の検討	
	第15回	制作案(方針)プレゼンテーション	
	第16～30回	基礎調査・研究・分析	
	第31～35回	コンセプト設定・諸条件整理	
	第36～38回	中間報告書作成	
	第39～40回	中間プレゼンテーション・講評	
	第41～55回	エスキス1(基本構成・配置・ゾーニング等)	
	第56～70回	エスキス2(平面、立面、断面の検討・ボリュームスタディ)	
	第71～72回	設計案中間プレゼンテーション・講評	
	第73～80回	エスキス3(講評に基づく設計案の再検討)	
	第81～117回	平面・立面・断面図・模型等必要表現の作成	
	第118～120回	プレゼンテーション・講評	
</			

科目概要

学科名	建築・インテリアデザイン科		
科目コード	2026SD56		
授業科目名	住宅設計B		
単位数	4		
必修・選択の別	必修		
対象コース	インテリアコーディネート		
開講年次	2年次	開講時期	前期
授業方法	演習		
実務経験のある教員による授業科目	該当する		

シラバス

授業内容	住宅メーカーで設計業務の経験を有する教員が、住宅を設計課題とし演習の指導を行う。具体的には木造二階建住宅設計を主な課題とし、家族構成や敷地条件を設定し基本計画・基本設計から実施設計へと段階を踏みながら設計を進め、最終的にはインテリアコーディネーションと規定の家具設計までを含めた実施設計図書の作成を行う。また、RCマンションの住宅改装や住宅LDKのリフォームの課題も取り組み、設定した躯体内を変更計画・設計する要領も学習する。
到達目標	設計者として必要な法的知識・意匠を考慮し、段階的に詳細で正確な実施設計図書一式【配置図・平面図・立面図・断面図・展開図及び造作家具詳細図・透視図・配線図・仕様書】を作成することができる。また、明確なコンセプトの設定を行い、施主へのプレゼンテーションやヒヤリングの能力を修得する。
授業計画	第1回 【木造二階建住宅設計】仕様テーマ決定 第2～5回 【木造二階建住宅設計】基本計画 エスキス及び検討 第6～9回 【木造二階建住宅設計】基本計画～設計製図 <平面図・立面図・断面図(1/100)> 第10～12回 【木造二階建住宅設計】実施設計 <断面詳細図(1/50)・配線図(1/100)> 第13～16回 【木造二階建住宅設計】仕様書・展開図・造作家具詳細図 第17～19回【木造二階建住宅設計】照明プラン作成 第20～23回 【木造二階建住宅設計】透視図作成・設計図書一式仕上げ 第24回 【木造二階建住宅設計】プレゼンテーション・講評 第25～28回【RCマンション住宅改装】エスキス、平面図・断面図・透視図 第29～34回【RCマンション住宅改装】平面図・展開図・透視図 第35回 【RCマンション住宅改装】プレゼンテーション・講評
教科書	特に指定しない
成績評価方法	各演習作品評価点（80％）及び授業参加への積極性を重視する平常点（20％）により評価する。
備考	

科目概要

学科名	建築・インテリアデザイン科		
科目コード	2026SD57		
授業科目名	コーディネート演習Ⅱ		
単位数	1		
必修・選択の別	選択必修		
対象コース	インテリアコーディネート/商業空間デザイン		
開講年次	2年次	開講時期	後期
授業方法	演習		
実務経験のある教員による授業科目	該当する		

シラバス

授業内容	建築設計事務所にて、建築設計、インテリアコーディネートの経験を持つ教員が顧客の要望、ニーズに応え、イメージを実現すべくプランを立てるためのより実践的なプレゼンテーションくツールの技法をう演習により修得する。
到達目標	インテリアコーディネーションにおいて、人が存在することを意識した住宅を一步進め、空間の使い方をむ見出しインテリアを考え、選択する。平面から立体へイメージの実現の為、プレゼンテーションに必要な知識と技術を修得する。
授業計画	第1回 インテリアコーディネートの実践に向けての計画と発想
	第2回 企画・基本計画 ライフスタイル、インテリアテイストのイメージ
	第3回 基本設計 具体的な形態、ゾーニング、レイアウト、仕上表
	第4回 家具の種類 スケッチパース演習
	第5回 ファブリックス 質感、カラーコーディネート
	第6回 建築設備機器計画・照明器具
	第7回 インテリアオーナメントとアクセサリー
	第8回 空間パース カラーコーディネート
	第9回 プレゼンテーションボード作成①
	第10回 プレゼンテーションボード作成②
教科書	特に指定しない。必要に応じて資料を配布する。
成績評価方法	各演習課題における作品評価点(80%)及び授業参加への積極性を重視する平常点(20%)を総合的に判断して行う
備考	

科目概要

学科名	建築・インテリアデザイン科		
科目コード	2026SD58		
授業科目名	インテリアコーディネーションⅠ		
単位数	9		
必修・選択の別	選択必修		
対象コース	インテリアコーディネート/商業空間デザイン		
開講年次	2年次	開講時期	前期
授業方法	演習		
実務経験のある教員による授業科目	該当する		

シラバス

授業内容	インテリアコーディネーターの資格を有する教員が、基礎知識を体系的に講義するとともに、実務経験に基づく具体的な事例を交えながら、多様な生活空間に対応するアドバイザーとして必要な考え方や実践的な視点について指導する。
到達目標	ライフスタイルの多様化、少子高齢化、地球環境や省エネルギーへの対応、安全・防犯意識の高まりなど、住宅とインテリアを取り巻く社会的背景を理解する。住まい手のニーズを的確に捉え、生活の場としてのインテリア空間を適切に構成・提案するため、インテリアコーディネーターに必要なとなる関連知識を体系的に修得する。
授業計画	第1回～第2回 インテリアコーディネーターの誕生とその背景 第3回～第4回 インテリアコーディネーターの仕事 第5回～第7回 インテリアの歴史（日本・西洋） 第9回～第12回 インテリアコーディネーションの計画 第13回～第15回 インテリアエレメント（家具・造作部品） 第16回～第18回 インテリアエレメント（ウィンドウトリートメント等） 第19回～第20回 関連エレメント 第21回～第26回 演習、まとめ① 第27回～第29回 インテリアの構造・構法と仕上げ 第30回～第32回 環境と設備 第33回～第36回 インテリアコーディネーションの表現 第37回～第39回 インテリア関連の法規・規格・制度 第40回～第45回 演習、まとめ②
教科書	インテリアコーディネートハンドブック 統合版 上下（インテリア産業協会）
成績評価方法	定期試験（80%）及び授業参加への積極性を重視する平常点・出席点（20%）。
備考	

科目概要

学科名	建築・インテリアデザイン科		
科目コード	2026SD59		
授業科目名	インテリアコーディネーションⅡ		
単位数	2		
必修・選択の別	選択必修		
対象コース	インテリアコーディネート/商業空間デザイン		
開講年次	2年次	開講時期	通年
授業方法	演習		
実務経験のある教員による授業科目	該当する		

シラバス

授業内容	インテリアコーディネーターの資格を有する教員が、顧客の要望・ニーズの把握を起点として、様々なインテリアエレメントの選定を総合的に検討し、住まい手にふさわしい空間を構想する力を養うための講義を行う。また、構想したインテリア計画を顧客に正確に伝えるためのプレゼンテーション技法を演習により修得する。
到達目標	インテリアコーディネーションにおいて、住まい手の生活や要望を的確に読み取り、住宅空間の使い方や動線、家具・仕上げ材・照明等の選択を総合的に計画する力を養う。平面図から空間を立体的にイメージし、図面表現、パース、着色、提案文などのプレゼンテーション技術を修得する。
授業計画	第1回～第2回 インテリアの構成要素 床・壁・天井・開口部・家具・照明など、インテリア空間を構成する基本要素について理解する。
	第3回～第4回 家具の種類 スケッチパース演習 インテリア提案に必要な家具表現とスケッチパースの基礎を練習する。
	第5回～第6回 ファブリックス 質感、アクセントについて カーテン・ラグ・クッション等の役割を理解し、素材感やアクセントの表現方法を学ぶ。
	第7回～第8回 インテリアコーディネートのための色彩 色彩の基礎知識を確認し、インテリアコーディネートにおける配色計画や色の効果について学ぶ。
	第9回～第10回 インテリアオーナメントとアクセサリ 小物・アート・観葉植物・照明器具などを用いた空間演出の方法を学び、表現力を高める。
	第11回～第12回 空間スケッチパース基本演習 インテリア空間を立体的に表現するための一点透視・二点透視技法を用いた演習を行う。
	第13回～第14回 プレゼンテーションボード作成 提案を整理し、伝わりやすいプレゼンテーションボードを作成する。
	第15回～第20回 作図演習・まとめ 平面図・展開図・家具配置・着色表現などの総合的な作図演習を行う。
教科書	指定しない。必要に応じて資料を配布する。
成績評価方法	各演習課題における作品評価点（80％）及び授業参加への積極性を重視する平常点・出席点（20％）。
備考	

科目概要

学科名	建築・インテリアデザイン科		
科目コード	2026SD60		
授業科目名	業界研究		
単位数	1		
必修・選択の別	選択必修		
対象コース	インテリアコーディネート/商業空間デザイン		
開講年次	2年次	開講時期	後期
授業方法	講義		
実務経験のある教員による授業科目	該当する		

シラバス

授業内容	建築設計事務所にて、建築設計、インテリアコーディネートの経験を持つ教員が住宅建築・インテリア業界における実務内容について、業態分類や仕事の流れ、業界の特徴と人口減少、建築資材・人件費高騰の現状を理解し学ぶ。
到達目標	省エネ・環境配慮やより高性能で効率的な設計が求められ、顧客のニーズに応え、意匠・構造・設計・インテリアを連携させて安全、快適な建築を完成させるための知識を修得する。
授業計画	第1回 建築・インテリア業務フロー① 顧客与条件ヒアリング→基本計画
	第2回 建築・インテリア業務フロー② 基本設計→実施設計→見積り
	第3回 建築・インテリア業務フロー③ 施工・監理
	第4回 建築設備ショールーム見学
	第5回 建築・インテリア業務フロー④ 引渡し・アフターフォロー
教科書	指定しない。必要に応じて資料を配布する。
成績評価方法	受講レポート(80%)、及び授業参加への積極性を重視する平常点(20%)により評価する。
備考	

科目概要

学科名	建築・インテリアデザイン科		
科目コード	2026SD61		
授業科目名	商業施設設計B		
単位数	4		
必修・選択の別	必修		
対象コース	商業空間デザイン		
開講年次	2年次	開講時期	前期
授業方法	演習		
実務経験のある教員による授業科目	該当する		

シラバス

授業内容	商業デザイン設計事務所での実務経験のある教員の指導により、商業施設設計Aで修得した設計プロセスの基礎を土台として、より多角的・実践的な商業デザインの展開を学ぶ。単なる空間設計に留まらず、ブランディングの視点や集客と満足を生む新たな付加価値を創出するための多角的な考察力を養うとともに、企画から基本設計の完遂までを実践する。
到達目標	市場背景やブランドの個性を理解した上で、独自の付加価値のある企画を提案できる。また、意匠・機能性を踏まえた基本設計図書をまとめ上げるスキルと、自らのアイデアを論理的かつ魅力的に発信するプレゼンテーション能力を身につける。
授業計画	・第1回～第2回：課題説明・既存の再定義と付加価値の創出 既存業態を再定義し、新たな付加価値を創出するための業態企画を策定する。 ・第3回～第4回：企画コンセプト立案～デザインコンセプトへの昇華 提供する体験価値を定義し、それを空間へと変換するためのデザインコンセプトを構築する。 ・第5回～第8回：ゾーニングから空間・平面構成の構築 機能と意匠を両立させるため、平面と立体の多角的な検証により空間構成を練り上げる。 ・第9回～第10回：ファサードデザインの構築 ブランドの「顔」を象徴する外装・導入部の重要性を理解し訴求力の高いファサード計画を行う。 ・第11回～第12回：ライティングプラン（照明計画）の検討 演出意図に基づいた照明の効果を理解し、プランの質を高めるライティング検討を行う。 ・第13回～第17回：基本意匠の構築 設計スタディを重ね、細部の検討を通じて空間表現の完成度を引き上げる。 ・第18回～第25回：基本設計図書の作成とプレゼンテーション準備 1/50基本設計図書（平面・立面・天伏・展開）の作成と、パースを含むプレゼンツールを制作。 ・第26回：プレゼンテーション・講評 最終プレゼンテーションを実施。教員や他者からの講評を通じて専門的視点を養う。 ・第27回～第28回：課題説明・現状分析とリニューアル定義 対象空間の現状を分析し、ブランド個性を活かしたリニューアルの方向性を定義する。 ・第29回～第31回：コンセプト立案～ブランドアイデンティティの具現化 独自の設計指針を導き出し、イメージボード等を用いて空間の方向性を明確にする。 ・第32回～第35回：基本意匠の構築・基本図面作成 設計スタディを重ね、独自の造形や演出を検討。必要図面と共に空間を構築する。 ・第36回～第39回：プレゼンテーション資料作成 設計意図を視覚的に訴求するための、表現力の高いプレゼンテーションボードを制作する。 ・第40回：最終プレゼンテーション・講評 設計意図を魅力的に発信し、講評を通じて商空間設計における専門的視点の定着を図る。
教科書	特に指定しない
成績評価方法	提出課題・プレゼンテーション評価点（80％）及び授業参加への積極性を重視する平常点（20％）により評価する。
備考	